

スポーツ柔整科 (JT22S・JT23S)

分野	教育内容	授業科目	区分	規程	カリ	単位	必修 選択	時間	1年次		2年次		3年次	
									前	後	前	後	前	後
基礎分野	科学的思考の 基盤人間と生活	国語表現	演習	14	14	2	必修	32	32					
		パソコン	演習			2	必修	32		32				
		生物学Ⅰ	講義			2	必修	32	32					
		生物学Ⅱ	講義			2	必修	32		32				
		栄養学Ⅰ	講義			2	必修	32	32					
		栄養学Ⅱ	講義			2	必修	32		32				
		体力学	講義			2	必修	32	32					
専門基礎分野	人体の構造 と機能	解剖学Ⅰ(運動器系)	講義	15	16	4	必修	64	32	32				
		解剖学Ⅱ	講義			4	必修	64			32	32		
		生理学Ⅰ	講義			2	必修	64	32	32				
		生理学Ⅱ	講義			2	必修	64			32	32		
		高齢者・競技者の生理学的特徴・変化	講義			2	必修	32				32		
		運動学	講義			2	必修	64			32	32		
	疾病と傷害	病理学	講義	11	11	2	必修	64			32	32		
		一般臨床医学Ⅰ	講義			2	必修	64			32	32		
		一般臨床医学Ⅱ	講義			1	必修	32						32
		外科学概論	講義			2	必修	32			32			
		整形外科学	講義			2	必修	32			32			
		リハビリテーション医学	講義			2	必修	64			32	32		
	柔道整復術の適応	柔道整復術の適応	講義	2	2	2	必修	32		32				
	保健医療福祉と 柔道整復の理念	職業倫理	講義	8	8	1	必修	16	16					
		衛生学・公衆衛生学	講義			2	必修	64	32	32				
		関係法規	講義			1	必修	32	32					
		柔道Ⅰ	実技			1	必修	32		32				
		柔道Ⅱ	実技			1	必修	32			32			
		柔道Ⅲ	実技			1	必修	32				32		
		柔道Ⅳ	実技			1	必修	32						32
社会保障制度	社会保障制度	講義	1	1	1	必修	16	16						
専門分野	基礎柔道整復学	基礎柔道整復学Ⅰ	講義	10	13	1	必修	32		32				
		基礎柔道整復学Ⅱ	講義			2	必修	64	32	32				
		基礎柔道整復学Ⅲ	講義			2	必修	64			32	32		
		基礎柔道整復学Ⅳ	講義			1	必修	32				32		
		基礎柔道整復学Ⅴ	講義			2	必修	64					32	32
		基礎柔道整復学Ⅵ	講義			2	必修	64					32	32
		基礎柔道整復学Ⅶ	講義			2	必修	64					32	32
		基礎柔道整復学Ⅷ(外傷保存療法の経過及び治癒の判定)	講義			1	必修	16			16			
	臨床柔道整復学	臨床柔道整復学Ⅰ	講義	17	17	2	必修	64	32	32				
		臨床柔道整復学Ⅱ	講義			2	必修	64	32	32				
		臨床柔道整復学Ⅲ	講義			2	必修	64			32	32		
		臨床柔道整復学Ⅳ	講義			2	必修	64			32	32		
		臨床柔道整復学Ⅴ	講義			2	必修	64					32	32
		臨床柔道整復学Ⅵ	講義			2	必修	64					32	32
		臨床柔道整復学Ⅶ	講義			2	必修	64					32	32
		臨床柔道整復学Ⅷ(柔道整復術の適応)	講義			2	必修	32						32
		臨床柔道整復学Ⅸ(物理療法機器の取扱い)	講義			1	必修	16			16			
	柔道整復実技	柔道整復実技Ⅰ	実技	17	18	2	必修	64	32	32				
		柔道整復実技Ⅱ	実技			2	必修	64			32	32		
		柔道整復実技Ⅲ	実技			2	必修	64					32	32
		柔道整復実技Ⅳ	実技			2	必修	64					32	32
		柔道整復実技Ⅴ	実技			2	必修	64					32	32
		柔道整復実技Ⅵ	実技			2	必修	64					32	32
		柔道整復実技Ⅶ	実技			2	必修	64					32	32
		柔道整復実技Ⅷ	実技			2	必修	64					32	32
		柔道整復実技Ⅸ(高齢者・競技者の外傷予防)	実技			2	必修	32						32
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	実習	4	4	1	必修	45		45				
		臨床実習Ⅱ	実習			1	必修	45			45			
		臨床実習Ⅲ	実習			1	必修	45				45		
臨床実習Ⅳ		実習	1			必修	45					45		
				99	104	104		2772	416	461	493	461	493	448
									877		954		941	

別表第1-2

スポーツ柔整科 (JT24S)

分野	教育内容	授業科目	区分	規程	カリ	単位	必修 選択	時間	1年次		2年次		3年次	
									前	後	前	後	前	後
基礎分野	科学的思考の 基盤人間と生活	コミュニケーション理論	演習	14	14	2	必修	30	30					
		情報リテラシー	演習			2	必修	30		30				
		生物学	講義			4	必修	30	30					
		栄養学	講義			2	必修	30	30					
		スポーツ栄養学	講義			2	必修	30		30				
		医用英語	講義			2	必修	30	30					
		スポーツコンディショニング論	講義			2	必修	30		30				
専門基礎分野	人体の構造 と機能	解剖学Ⅰ	講義	15	16	2	必修	60	30	30				
		解剖学Ⅱ(運動器:骨格系,筋系)	講義			2	必修	60	30	30				
		解剖学Ⅲ	講義			2	必修	60			30	30		
		生理学Ⅰ	講義			2	必修	60	30	30				
		生理学Ⅱ	講義			2	必修	60			30	30		
		解剖生理学	講義			2	必修	60					30	30
		運動学	講義			2	必修	60			30	30		
		高齢者の生理学的特徴・変化	講義			1	必修	30						30
		競技者の生理学的特徴・変化	講義			1	必修	30						
	疾病と傷害	一般臨床医学Ⅰ	講義	11	13	2	必修	60			30	30		
		一般臨床医学Ⅱ(高齢者)	講義			2	必修	30					30	
		病理学	講義			2	必修	60			30	30		
		外科学概論	講義			2	必修	30					30	
		整形外科学	講義			2	必修	60			30	30		
		リハビリテーション医学Ⅰ	講義			2	必修	30			30			
		リハビリテーション医学Ⅱ(高齢者の運動機能維持・回復)	講義			1	必修	30					30	
	柔道整復術の適応	講義	2	2	2	必修	30					30		
	保健医療福祉と 柔道整復の理念	関係法規	講義	8	8	1	必修	30			30			
		衛生学・公衆衛生学	講義			2	必修	60			30	30		
職業倫理		講義	1			必修	30						30	
柔道Ⅰ		実技	1			必修	30		30					
柔道Ⅱ		実技	1			必修	30			30				
柔道Ⅲ		実技	1			必修	30				30			
柔道Ⅳ	実技	1	必修	30						30				
社会保障制度	講義	1	1	1	必修	30		30						
専門分野	基礎柔道整復学	基礎柔道整復学Ⅰ	講義	10	10	2	必修	60	30	30				
		基礎柔道整復学Ⅱ	講義			2	必修	60	30	30				
		基礎柔道整復学Ⅲ	講義			2	必修	60	30	30				
		基礎柔道整復学Ⅳ	講義			2	必修	60	30	30				
		基礎柔道整復学Ⅴ(外傷保存療法の経過及び治癒の判定)	講義			2	必修	60			30	30		
	臨床柔道整復学	臨床柔道整復学Ⅰ	講義	17	18	2	必修	60	30	30				
		臨床柔道整復学Ⅱ	講義			2	必修	60			30	30		
		臨床柔道整復学Ⅲ	講義			2	必修	60			30	30		
		臨床柔道整復学Ⅳ	講義			2	必修	60					30	30
		臨床柔道整復学Ⅴ	講義			2	必修	60					30	30
		臨床柔道整復学Ⅵ(物理療法機器の取扱い)	講義			2	必修	60					30	30
		臨床柔道整復学Ⅶ(柔道整復師の臨床的判定・医用画像)	講義			2	必修	60					30	30
		臨床柔道整復学Ⅷ	講義			2	必修	60					30	30
		臨床柔道整復学Ⅸ	講義			2	必修	60					30	30
	柔道整復実技	柔道整復実技Ⅰ	実技	17	20	2	必修	60	30	30				
		柔道整復実技Ⅱ	実技			2	必修	60	30	30				
		柔道整復実技Ⅲ	実技			2	必修	60	30	30				
		柔道整復実技Ⅳ(高齢者の外傷予防)	実技			1	必修	30			30			
		柔道整復実技Ⅴ(競技者の外傷予防)	実技			1	必修	30				30		
柔道整復実技Ⅵ		実技	2			必修	60			30	30			
柔道整復実技Ⅶ		実技	2			必修	60			30	30			
柔道整復実技Ⅷ		実技	2			必修	60					30	30	
柔道整復実技Ⅸ		実技	2			必修	60					30	30	
柔道整復実技Ⅹ		実技	2			必修	60					30	30	
柔道整復実技Ⅺ		実技	2			必修	60					30	30	
臨床実習	臨床実習	臨床実習Ⅰ	実習	4	4	1	必修	45		45				
		臨床実習Ⅱ	実習			1	必修	45			45			
		臨床実習Ⅲ	実習			1	必修	45				45		
		臨床実習Ⅳ	実習			1	必修	45					45	
				99	106	108		2910	450	525	525	525	495	390
									975	1050	885			

シラバス (授業計画書)

科目名(コミュニケーション理論)

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1. 授業の内容

相手との会話を成立させるためには、まず、正しい日本語を正しい表現力で伝えられなければならない。そのためには、日本語の知識、その活用が重要になってくる。授業では日本語の語彙力の向上、語彙力に基づく書く力の向上、そしてコミュニケーションの能力を高めることが内容となってくる。

2. 到達目標

コミュニケーションの要は「相手（患者）の心に自分の心を沿わせてみて、相手の心情を察し、心の機微に触れること」である。いかに、相手の話を聞いて、適切に対応できるか。その基本となる会話力を身につけることを目標とする。

3. 授業の方法

考える力＝論理力、理解力、説明力を育てるために、日本語力向上のためテキスト演習、スピーチ力・ディベート力向上のためのグループワークを行う。

10分間テストの活用

4. 成績評価方法・基準

試験の点数（60%）＊作文20%含＋演習での発言力・回数・授業参加の姿勢・レポート等（40%）で評価する。

5. 評価の際の特記事項

授業参加の姿勢は90分全ての段階で評価する。遅刻・欠席は減点する。

6. 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

90分の授業内で学習内容を習得できなかった学習課題は各自自宅学習で習熟理解しておくこと。

基本熟語・難解語等は学習課題として適宜自宅学習として配布する。

7. 使用教材・教具

「文章カステップ」（文章検3級対応） 日本漢字能力検定協会

「1日10分言語力ドリル」（聞く話す） 第一学習社

8. 学生へのメッセージ

コミュニケーション能力は、様々な場面で必要とされる。特に、医療関係に従事する者としては、不可欠な要素と思われる。そのことをよく自覚して、医療者となるように、日ごろより努力を惜しまないで欲しい。

私がこれまでに大事にしてきた言葉は「人生にリハーサルはなし」。その意は、人生はいつも本番で真剣勝負の毎日が待っているのである。

9. 教員氏名(出口 彰)

所属(ころ医療福祉専門学校佐世保校 非常勤講師)

10. 特記事項

通常教員による授業科目

科目名(コミュニケーション理論)

回数	授業内容	
1	講座概論 医療コミュニケーションの目的 患者－医療者間の信頼関係	
2	コミュニケーションに必要な語彙力 (1)	相手意識、目的意識
3	コミュニケーションに必要な語彙力 (2)	情報を聞く力 (1)
4	コミュニケーションに必要な資料分析力 (3)	情報を聞く力 (2)
5	コミュニケーションに必要な文章読解力 (4)	情報を聞く力 (3)
6	コミュニケーションに必要な文章読解力 (5)	考えを聞く力 (1)
7	コミュニケーションに必要な常識力 (6)	考えを聞く力 (2)
8	コミュニケーションに必要な常識力 (7)	考えを聞く力 (3)
9	コミュニケーションに必要な意見力 (8)	事実を話す力 (1)
10	コミュニケーションに必要な構成力 (9)	事実を話す力 (2)
11	グループワーク (1) スピーチ	
12	グループワーク (2) スピーチ	
13	グループワーク (3) プレゼンテーション	
14	グループワーク (4) (ディベート演習)	
15	まとめの演習	

シラバス（授業計画書）

科目名（ 情報リテラシー ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

授業の前半は、プレゼンテーションなどで使用される「PowerPoint」を使用し、課題を設定した資料作成（社会人として習得しておくべき、パワーポイント）の制作スキルを学びます。また、後半では、Wordでの表やグラフ作成の基礎と、Excelの連携についても学習します。

2 到達目標

アプリケーションの機能概要（操作）の理解と画面操作のみではなく、ショートカットキーの同時使用で、作業の効率化が出来ます。また、プレゼンテーションや報告書の作成スキルを習得します。

3 授業の方法

講師用パソコンをプロジェクターに写し、操作方法を同時に行いながら修得します。又、各章毎に練習問題を実施し、回答を行いながら修得します。

4 成績評価方法・基準

定期試験 → 70%

授業態度 → 30%

5 評価の際の特記事項

授業態度は、授業や課題への取り組みや出欠を含めて総合的に判断いたします。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って講義を行います。また、授業の空き時間で「PCが空いている時など、事前に教科書の予習・復習をしておくこと。

7 使用教材，教具

「よくわかる Microsoft Word2021&Microsoft Excel2021&Microsoft PowerPoint2021」
(FOM 出版)

8 学生へのメッセージ

ビジネス業界で必ず必要となる「文書作成や表計算」を Microsoft 社の「Office2021」を使用して基礎から学習します。今回は Word,Excel,PowerPoint を基礎から学習しますので、日常生活でも活用してください。

9 教員氏名（ 家富 浩人 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名（ 情報リテラシー ）

回数	授業内容
1	PC とアプリケーション（Office2019）の全体説明
2	PowerPoint 基礎知識
3	PowerPoint プレゼンテーション作成
4	PowerPoint スライドショーの実行
5	Word 基礎知識
6	Word 文書作成
7	Word グラフィック機能
8	Word ワードでの表作成
9	Excel 基礎知識
10	Excel データ入力
11	Excel エクセルでの表作成
12	Excel グラフの作成
13	Excel データ分析
14	Word・Excel アプリケーション間でのデータ共有
15	答案返却及び解説 授業の進捗度・理解度等により順序が変更する場合もある。

シラバス (授業計画書)

科目名 (生物学)

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

医療の基礎となる解剖学や生理学や病理学を理解する上で必要な生物の細胞において、細胞の構造、細胞の組織、DNA、遺伝、免疫についての基礎知識を学んでいく。

2 到達目標

生物学で用いる基本的な用語を理解し、解剖学・生物学・臨床医学・病理学などの学問を理解するための橋渡しを目指し、医療従事者と共通の認識がもてることを目指す。

3 授業の方法

毎回プリントを配布し、それに解説を加えながら空欄を埋めることにより理解を図る。

4 成績評価方法・基準

試験を 90%、平常点を 10% で評価します。

5 評価の際の特記事項

毎時間小テストを行い、それを平常点とします。欠席が多いと当然小テストの点数がなくなり、平常点も減少します。

6 授業時間外学習 (予習・復習等) の具体的内容

授業時間を大切にすること。その日に学んだことはその時間内で理解するように心がけてください。それに加えて、忘れないように復習を行ってください。

7 使用教材, 教具

テキストは毎回プリントを配ります。それと副教材を使います。

副教材: 「サイエンスビュー 生物総合資料」 実教出版

8 学生へのメッセージ

最初は新しい言葉が沢山出てきてパニックになるかもしれませんが、重要な言葉は何度でも出てきます。それらを少しずつ覚えていくことで理解が急速に容易になるはずです。

自分の夢に向かって頑張りましょう。

9 教員氏名 (松尾 泰博)

所 属 (ころ医療福祉専門学校佐世保校 非常勤講師)

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名 (生物学)

回数	授業内容
1	生命の誕生、細胞成分
2	細胞成分 (タンパク質、糖質、脂質、核酸、無機塩類)
3	脂質 核酸 無機塩類 様々な細胞 真核細胞の構造と働き
4	細胞の構造、細胞骨格、細胞外基質
5	細胞膜、浸透圧、選択的透過性、受動輸送
6	能動輸送、膜動輸送
7	DNAの構造、染色体とDNA
8	半保存的複製、DNAの複製、テロメア、PCR
9	DNAの修復、RNAの種類と働き、暗号解読
10	タンパク質の合成
11	突然変異、遺伝子変異とがん
12	がん (一般的な知識、ウイルスによるがん、がん遺伝子)
13	非特異的防御、炎症反応、特異的防御 (抗体の構造)
14	抗体の種類、B細胞、T細胞、液性免疫、細胞性免疫
15	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 栄養学 ）

学科名 スポーツ系整科

学年 1年

1 授業の内容

栄養素の種類と機能について学び、食品・栄養と健康のかかわりについて理解する。

2 到達目標

栄養学の知識を取り入れた生活をしていくことで、自分あるいは周りの人々の健康の維持・増進を図る。

3 授業の方法

教科書・資料を用いた講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 70%、出席 15%、授業態度 15%

5 評価の際の特記事項

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

復習はもちろんです。自身の食生活において実践することでより定着させてください。

7 使用教材，教具

新・栄養学総論 第2版 講談社

8 学生へのメッセージ

「食べる」ことは「生きる」ことです。食べることがいかに重要かということ再認識する機会にしてほしいと思います。

9 教員氏名（ 橋本 孝子 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 非常勤講師 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名 (栄養学 I)

回数	授業内容
1	栄養の概念 (1) 栄養と健康、疾患
2	栄養の概念 (2) 摂取した栄養素の体内でのはたらき
3	炭水化物の栄養素 (1) 糖質の種類と構造①
4	炭水化物の栄養素 (2) 糖質の種類と構造②
5	炭水化物の栄養素 (3) 糖質の体内代謝
6	タンパク質 (1) タンパク質の構造と体内代謝
7	タンパク質 (2) アミノ酸の構造と種類
8	脂質 (1) 脂質とは
9	脂質 (2) 脂肪酸の構造と種類①
10	脂質 (3) 脂肪酸の構造と種類②
11	ビタミンの栄養 (1) ビタミンの分類と栄養学的特徴①
12	ビタミンの栄養 (2) ビタミンの分類と栄養学的特徴②
13	ミネラルの栄養 (1) ミネラルの分類と栄養学的特徴①
14	ミネラルの栄養 (2) ミネラルの分類と栄養学的特徴②
15	水の働き 定期試験の解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ スポーツ栄養学 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

栄養学の基本とスポーツとの関係についての知識を学ぶ。アスリートへの栄養サポートナド、スポーツ栄養学の実践を知る。

2 到達目標

栄養学の知識を取り入れた生活をしていくことで、各種スポーツへの影響を知り、自分あるいは周りの人々の健康の維持・増進を図る。

3 授業の方法

教科書・資料を用いた講義

4 成績評価方法・基準

定期試験70%、出席15%、授業態度15%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

復習はもちろんです。自身の食生活において実践することでより定着させてください。

7 使用教材，教具

新・栄養学総論 第2版 講談社

8 学生へのメッセージ

「食べる」ことは「生きる」ことです。食べることがいかに重要かということを再認識する機会にしてほしいと思います。

9 教員氏名（ 橋本 孝子 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 非常勤講師 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名 (スポーツ栄養学)

回数	授業内容
1	ガイダンス・食生活（食事・飲料）と健康運動
2	食事摂取基準と食事バランスガイド
3	エネルギーと炭水化物
4	身体活動量の定量法とその実際
5	タンパク質とカラダづくり
6	脂肪とウエイトコントロール
7	ビタミン・ミネラルとコンディショニング
8	水分とコンディショニング
9	サプリメントとエルゴジェニック
10	成長期、高齢期と女性スポーツの注意点
11	瞬発系・パワー系・持久系競技の栄養
12	審美系・階級制競技とチームスポーツの栄養
13	栄養・食事アセスメントと栄養サポートの方法（行動変容）
14	トピックス、まとめ
15	定期試験の解説、総復習

シラバス (授業計画書)

科目名(医用英語)

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1. 授業の内容

国際化の進む現代の日本社会において、世界共通のとしての英語力の向上は重要である。社会で仕事をしていくうえで遭遇するであろう状況に応じた適切な英語の運用を、場面を想定しながらグループワークを中心に組み込んでいく。

2. 到達目標

日本語を母語としない他者とコミュニケーションを図ろうとする姿勢を養う。また、柔道整復師として現場に立った際に、相手の状況を共有し必要な情報を伝えることができるように、医用英語を中心とした英語を理解し運用する力を身につける。

3. 授業の方法

柔道整復師の業務場面での各場面に応じた英会話を、テキストを使用しながら学習する。また、コミュニケーションをとる相手（患者）の立場を考慮することができるよう、グループワークを中心とした授業を展開していく。

4. 成績評価方法・基準

定期試験及び課題：70% 授業参加率：30%

5. 評価の際の特記事項

授業参加率は、出席率・授業態度・グループワークでの積極性等を総合的に評価する。

6. 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

課題が出された場合は、設題に沿った内容を期限内に沿って提出する。

授業計画に沿ってテキストで予習を行う。その際に分からない単語や表現があれば事前に意味を調べておく。

7. 使用教材・教具

九段日本文化研究所・日本語学院 発行 / 公益社団法人柔道整復師会監修

「柔道整復師のための外国人対応ハンドブック【英語版】」

Judotherapist-Patient Handbook

8. 学生へのメッセージ

英語でのコミュニケーションは皆さんの世界を広げます。卒業後になりたい自分をイメージしながら、医用英語を身につけ使うことにチャレンジしていきましょう。

9. 教員氏名(中島 奈津子)

所属(ころこ医療福祉専門学校佐世保校 非常勤講師)

10. 特記事項

通常教員による授業科目

科目名(医用英語)

回数	授業内容
1	はじめに Introduction / 柔道整復術・柔道整復師について About Judothrapy and Judothrapist
2	本書について About This Book / 本書の使い方 How to Use This Book / 受付 I At the Reception I
3	前回の復習 Review a previous lesson / 受付 II At the Reception II
4	前回の復習 Review a previous lesson / 診察 During the Medical Examination / 問診 I Medical Interview
5	前回の復習 Review a previous lesson / 問診 II Medical Interview
6	前回の復習 Review a previous lesson / 視診 Ocular Inspection
7	前回の復習 Review a previous lesson / 触診 I Palpation
8	前回の復習 Review a previous lesson / 触診 II Palpation
9	前回の復習 Review a previous lesson / 超音波機器による診察 Examination Using Ultrasound Machine
10	前回の復習 Review a previous lesson / 診断 examination Results
11	前回の復習 Review a previous lesson / 施術 I Treatment I
12	前回の復習 Review a previous lesson / 施術 II Treatment II
13	前回の復習 Review a previous lesson / 会計 Payment
14	前回の復習 Review a previous lesson / 全体の振り返り Overall Review
15	試験解説 / Exam explanation

シラバス（授業計画書）

科目名（ スポーツコンディショニング論 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1 年

1 授業の内容

コンディショニングとは「ピークパフォーマンスの発揮に必要な全ての要因を望ましい状態に整えること」である。本授業では、コンディションおよびコンディショニングに関係する全ての要素について、身体的、環境的、心因的因子などの側面から捉えながら学ぶ。

2 到達目標

- ・コンディションとコンディショニングの定義について説明できる。
- ・コンディショニングに関わる評価意義や各種評価方法について説明できる。
- ・コンディショニングの要素や因子について説明できる。
- ・ウォーミングアップとクーリングダウンの目的や効果、その実際について説明できる。
- ・各種トレーニングの理論とその実際について説明できる。
- ・各種トレーニング計画の立案方法について説明できる。
- ・各種スポーツ競技のコンディショニングの方法とその実際について説明できる。

3 授業の方法

講義を中心とした内容に、体を動かすことによって得られる効果的な運動を実施し、学習を深める。

4 成績評価方法・基準

レポート 30%、筆記試験 70%で評価する。

5 評価の際の特記事項

授業態度は質問に対する説明能力及び意見をまとめ伝える力とする。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

次の時間に学習する内容をプリントとして配布し、予習することにより授業内容を理解し、直後に復習することにより定着させる。

7 使用教材，教具

8 学生へのメッセージ

コンディショニングと各要素や因子について、また、各指標や評価方法などについて理解し、アスリートやスポーツ現場において実践できるような学修を行って欲しい。

9 教員氏名（ 牟藤 央 ）

所 属（ 長崎県立佐世保北高等学校 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名 (スポーツコンディショニング論)

回数	授業内容
1	コンディショニングとは
2	コンディショニングに関わる各種測定・評価法
3	コンディショニングに関わる身体的因子とその評価
4	コンディショニングに関わる環境的因子について
5	ウォーミングアップの目的、理論とその実際
6	クーリングダウンの目的、理論とその実際
7	体幹トレーニングなどのコンディショニングの方法とその実際
8	筋力トレーニングなどのコンディショニングの方法とその実際
9	各種トレーニングのコンディショニングの方法とその実際
10	各種トレーニング計画の立案
11	競技種目特性とコンディショニング
12	球技系の種目特性とコンディショニング
13	記録、採点系の種目特性とコンディショニング
14	まとめ
15	試験返却&解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 解剖学 I ）

学科名 スポーツ柔整 科
学年 1 年

1 授業の内容

人体の形態と構造を調べる解剖学の基本的な項目を学んだ後、内臓系の構成と構造、それらの働きを統合する脈管系の構造を学習する。

2 到達目標

細胞・組織の構造と機能，心臓の構造と脈管系の経路，消化器・呼吸器・泌尿生殖器の構成と構造を説明できる力を身につけさせる。

3 授業の方法

教科書に沿って解説する。必要に応じてスライドの使用や補足資料の配付を行う。また，理解度の確認のため適宜，授業内で小テストを実施する。

4 成績評価方法・基準

小テスト成績 10%，中間試験成績・定期試験成績 90%の割合で，中間評価と後期評価を行う。

5 評価の際の特記事項

中間評価を 40%，後期評価を 60%の割合で総合評価を行う。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

シラバスに沿って授業を進めるので，その日の授業内容について教科書を読み，予習して授業に臨むこと。予習で理解できなかったことを授業で解決するよう意識し，授業後は必ずその日の内容をまとめて，知識の整理・定着に努めること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会編「解剖学」（改定第2版） 医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

解剖学は他の科目の基礎となる重要な科目です。解剖学名の暗記が必要になりますが，生理学で学ぶ人体の機能と関連づけて理解するよう心がけてください。また，局所を断片的に勉強するだけでなく，他の部位とのつながりのなかで個々の特徴を理解することが必要です。ヒトの体は驚くほど合理的にできています。そのおもしろさに気づき，授業の範囲にとどまらず自ら学んでもらえたらと思います。

9 教員氏名（ 山邊 芳久 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名 (解剖学 I)

回数	授業内容
1	1 人体解剖学概説 E 人体の区分 A 解剖学用語 B 細胞と組織 細胞膜
2	1 人体解剖学概説 B 細胞と組織 細胞小器官 DNA と遺伝子
3	1 人体解剖学概説 B 細胞と組織 細胞分裂 上皮組織 支持組織
4	1 人体解剖学概説 B 細胞と組織 血液 酸素運搬 免疫 止血
5	1 人体解剖学概説 B 細胞と組織 筋組織 C 発生 胚葉 D 器官系統
6	3 脈管系 A 総論 体循環と肺循環 血管の形態と構造
7	3 脈管系 B 心臓 位置と形態 構造 心膜 刺激伝導系
8	3 脈管系 C 心脈管系 動脈系 大動脈 頭頸部の動脈 大脳動脈輪
9	3 脈管系 C 心脈管系 動脈系 上肢の動脈 胸腹部の動脈
10	3 脈管系 C 心脈管系 動脈系 骨盤部の動脈 下肢の動脈
11	3 脈管系 C 心脈管系 静脈系 腕頭静脈 内頸静脈 硬膜静脈洞
12	3 脈管系 C 心脈管系 静脈系 骨盤部・下肢の静脈 胎児循環
13	3 脈管系 D リンパ系 リンパ本管 リンパ性器官 脾臓 胸腺
14	人体解剖概説, 脈管系のまとめ
15	中間試験答案返却および解説
16	4 内臓系 A 消化器 消化管と消化線 消化管壁の構造 口腔 唾液腺
17	4 内臓系 A 消化器 歯 舌 咽頭 食道 嚥下
18	4 内臓系 A 消化器 腹膜 胃 大弯と小弯 胃腺
19	4 内臓系 A 消化器 小腸 (十二指腸 空腸 回腸) 大腸 (盲腸 結腸)
20	4 内臓系 A 消化器 大腸 (直腸 肛門括約筋) 肝臓 肝小葉 胆汁流路
21	4 内臓系 A 消化器 胆嚢 膵臓 B 呼吸器 鼻腔 鼻甲介 副鼻腔
22	4 内臓系 B 呼吸器 喉頭 喉頭軟骨 声帯 気管 気管支
23	4 内臓系 B 呼吸器 気管支の分岐 肺 肺胞上皮 胸膜 縦隔
24	4 内臓系 C 泌尿器 腎臓 腎小体 腎単位 腎臓の血管
25	4 内臓系 C 泌尿器 尿管 膀胱 尿道
26	4 内臓系 D 生殖器 男性生殖器 精巣 精路 付属腺
27	4 内臓系 D 生殖器 男性生殖器 陰茎 陰囊 女性生殖器 卵巣
28	4 内臓系 D 生殖器 女性生殖器 子宮 卵巣と子宮の周期的変化 胎盤
29	内臓系まとめ
30	定期試験答案返却および解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (解剖学Ⅱ — 運動器の構造)

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

人体の運動器である骨格および筋肉について学習する。

2 到達目標

人体の骨格の構造や各部位の名称。筋肉の起始停止やその作用について理解する。

3 授業の方法

PC プロジェクターを使用したパワーポイントによる講義。骨および筋の模写。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習 (予習・復習等) の具体的内容

前回の授業内容を復習し、これまでの知識を活かして授業に臨む。

7 使用教材, 教具

全国柔道整復学校協会監修「解剖学」改訂版第2版 医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

運動器は柔道整復師施術所で施術する際の基礎的な知識です。暗記が多くなりますが、一つ一つ覚えましょう。

9 教員氏名 (松永 省三)

所 属 (マツナガ歯科)

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名（ 解剖学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	上肢帯の骨格①
2	上肢帯の骨格②
3	上腕骨
4	前腕の骨格①
5	前腕の骨格②
6	手部の骨格①
7	手部の骨格②
8	脊柱①
9	脊柱②
10	寛骨
11	大腿骨
12	下腿骨
13	足部の骨格
14	まとめ
15	試験解説
16	頭蓋骨①
17	頭蓋骨②
18	上肢帯の筋肉①
19	上肢帯の筋肉②
20	上肢の筋肉①
21	上肢の筋肉②
22	体幹の筋肉①
23	体幹の筋肉②
24	下肢帯の筋肉①
25	下肢帯の筋肉②
26	下肢の筋肉①
27	下肢の筋肉②
28	総復習
29	まとめ
30	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 生理学 I ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1 年

1 授業の内容

医療人として不可欠な知識である生理学の中でも、解剖生理を基本として神経、筋、運動、感覚といった生命活動に結びつく重要な機能等を講義とテスト形式で学習する

2 到達目標

授業を通して得られた生命活動に関わるキーワードについて簡単な説明ができるような知識、自分の意見をまとめ他人に伝える力を身に付けさせる

3 授業の方法

講義のほか、問題形式による講義内容の確認

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

定期試験による評価を全てとします

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に予習、復習をしてくること
使用教材を何度も読み予習することが特に重要である

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会編「生理学」（改訂第4版）南江堂

8 学生へのメッセージ

生理学の教科書は最初の頃は読んでも意味がわかりませんが、あきらめないことが大事、授業が進むうちにいろいろな部分のつながりが見えるようになり理解できるようになります

9 教員氏名（ 永松 敬 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 非常勤講師 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名（ 生理学 I ）

回数	授業内容
1	生理学とは（細胞の構造と機能）
2	生理学とは（組織、器官と生体の機能系、生体の恒常性、体液等）
3	筋の生理（骨格筋）
4	筋の生理（心筋、平滑筋）
5	神経の生理（神経信号の伝達）
6	神経の生理（神経系の構成）
7	神経の生理（内臓機能の調節）
8	神経の生理学 まとめ
9	運動の生理（運動の調節、運動神経と運動単位）（脊髄による反射とその調節）
10	運動の生理（脊髄による反射とその調節、脳幹による調節、高次運動機能）
11	感覚の生理（感覚の一般的な特性）
12	感覚の生理（特殊感覚）
13	感覚の生理（体性感覚）
14	感覚の生理（内臓感覚、痛覚）
15	答案返却および解説
16	内分泌（ホルモンの一般的性質、内分泌腺）
17	内分泌（視床下部、下垂体のホルモン）
18	内分泌（甲状腺、副甲状腺、副腎皮質のホルモン）
19	内分泌（副腎髄質、腎臓、膵臓のホルモン）
20	内分泌（精巣、卵巣のホルモン、ホルモンによる内部環境維持）
21	内分泌（ホルモンによる内部環境維持、恒常性維持）
22	生殖（性分化、男性生殖器）
23	生殖（性分化、女性生殖器）
24	生殖（妊娠と分娩）
25	全体のまとめ（前期の学習内容）
26	全体のまとめ（前期の学習内容）
27	全体のまとめ（前期の学習内容）
28	全体のまとめ（後期の学習内容）
29	全体のまとめ（後期の学習内容）
30	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道 I ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

競技を目的とする柔道を教育するものではなく、柔道整復術の技術のバックボーンである主義や人格の形成、心身の鍛錬を目的として礼儀作法の習得を講師自身の実務経験を活かし、学生に伝え、体得させる。

2 到達目標

日々の生活の中でも、柔道精神の礼節が応用できるように、その基礎を体得する。

3 授業の方法

第一ステージ － 柔道のよさを知り、楽しさを深めよう

第二ステージ － 基本動作の習得、得意技を身に付ける

第三ステージ － 形、試合を学び柔道実技審査合格

4 成績評価方法・基準

実技 100%

5 評価の際の特記事項

競技の目的の柔道を教育するものではなく、機能的特性、構造的特性を育てたく考えているので、実技試験並びに真面目に授業に参加する姿勢を評価する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実技練習は危険の為、プリントを配布して柔道の基礎的知識を学んでもらう。

7 使用教材，教具

柔道事故のデータブック 柔道の安全指導 柔道の授業作り 柔道の形 講道館形、技 DVD 等

8 学生へのメッセージ

柔道を通して、人としての振舞いの基本、礼儀作法を学んでほしい。

9 教員氏名（ 宮田 哲弘 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ： 柔道整復施術所において施術管理者としての 23 年の実務経験あり。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業

科目名（ 柔道Ⅰ ）

回数	授業内容
1	嘉納治五郎師範について、武道と柔道について
2	指導者の責任と安全配慮義務
3	柔道における事故要因と発生のメカニズム 事故や怪我を未然に防ぐ為には
4	礼法、柔道着の扱い方
5	後ろ受け身、補強運動
6	横受け身、前受け身、補強運動
7	姿勢と組み方、進退動作、組んでからの前回り受け身
8	崩しと体さばき、足を払われての受け身
9	固め技の基本動作
10	固め技の防御に必要な基本動作
11	立ち技での受け身の練習、小内刈り、大内刈り
12	立ち技での受け身の練習、出足払い、体落とし
13	立ち技での受け身の練習、背負い投げ
14	立ち技での受け身の練習、大腰、釣り込み腰
15	定期試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 社会保障制度 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

社会保障制度の概要、保険診療の種類や基準について学び、担当教員の実務経験を基にした指導を行い、実践力を備えた人材へと成長を促す。

2 到達目標

社会保障制度、介護保険の内容を把握する。

3 授業の方法

教科書・配布資料を使用した講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業で配布している資料に関する復習をし、自己の弱点を克服してください。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」

医歯薬出版株式会社

8 学生へのメッセージ

資格取得後も必要な知識です。一緒に頑張りましょう。

9 教員氏名（ 米田 伸一 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所で施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (社会保障制度)

回数	授業内容
1	社会保障とは ①3つの機能 ②社会と今後の社会保障
2	社会保障制度とは ①公的年金 ②仕組み ③介護保険の意義 ④社会公的公衆の意義
3	医療保険制度とは ①医療保険の目的意義 ②保険診療の概要
4	医療保険制度とは ③医療保険制度の現状と課題
5	医療保険制度とは ④診療報酬制度
6	療養費制度の概要 ①療養費とは
7	療養費制度の概要 ②柔道整復療養費
8	療養費制度の概要 ③柔道整復療養費の推移
9	療養費制度の概要 ④療養費の概要
10	療養費制度の概要 ①-1 療養費の算定 a.療養費料金 b.初検料 c.相談料
11	療養費制度の概要 ①-2 療養費の算定 d.時間外 e.往療料 f.再検料
12	療養費制度の概要 ①-3 療養費の算定 g.施術料 h.一部負担金
13	療養費請求のケーススタディー
14	総復習
15	試験返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

柔道整復術の沿革、歴史を医学史と並行して学び、柔道整復術の施術方法を知るために、基礎医学である解剖学及び生理学の学習をしながら、骨の機能と構造を理解し、骨折についての基礎を学習する。講師の実務経験をもとに、臨床例も紹介する。

2 到達目標

柔道整復師の業務範囲を理解し、各外傷の発生機序やそれらの特徴的症狀などを学び、施術に繋がる基礎知識を身につける。

3 授業の方法

教科書に準じて、板書を基本に授業を進める。また、適宜必要に応じて参考資料の配布を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の復習により長期記憶に置き換わるため教科書を反復学習し、わからない部分を無くしていくことを推奨する。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編第7版」南江堂
プリント資料

8 学生へのメッセージ

柔道整復師の仕事を理解するためには、専門分野の知識を身につける必要があります。理解を深めるためにも授業に集中し、不明な点は後回しせずとその都度質問をするように心掛けてください。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所において施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

1 1 科目名 (基礎柔道整復学 I)

回数	授業内容
1	オリエンテーション 柔道整復術および柔道整復師の沿革 P2～P6
2	業務範囲とその心得および柔道整復師倫理綱領
3	総論 — 人体に加わる力、損傷時に加わる力①
4	損傷時に加わる力② — 外傷のメカニズム
5	骨の形態と機能①
6	骨の形態と機能②
7	骨損傷の概説：骨損傷に関わる力、骨損傷の分類①：性状による分類
8	骨損傷の分類②：程度による分類、骨折線の方向による分類
9	骨損傷の分類③：外創との交通の有無による分類、外力の働いた部位による分類
10	骨損傷の分類④：外力の働き方による分類、部位による分類、経過による分類
11	骨折の症状：局所症状、全身症状①
12	骨折の症状：局所症状、全身症状②
13	骨折の症状：局所症状、全身症状③
14	骨折の症状 まとめ復習
15	試験解説
16	骨折の合併症：併発症①
17	骨折の合併症：併発症②
18	骨折の合併症：続発症①
19	骨折の合併症：続発症②
20	骨折の合併症：後遺症①
21	骨折の合併症：後遺症②
22	小児骨折の特徴①
25	小児骨折の特徴②
26	高齢者骨折の特徴
27	骨折の癒合日数、骨折の治癒経過
28	骨折総論まとめ復習
29	まとめ復習
30	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の概要

関節損傷および軟部組織損傷各論を学ぶうえの基礎として、各組織の構造と機能、それらの損傷総論を学習し、理解する。
各論では顎関節脱臼、脊椎の脱臼などを、講師の実務経験を例に挙げて、学習する。

2 到達目標

関連ある解剖学の学習を同時におこないながら、関節損傷の分野を理解していく。
解剖学などの専門基礎分野を学習することで、柔道整復師が業務として取り扱う運動器の損傷についての基礎を理解することを目標とする。

3 授業の方法

板書を基本に、教科書と資料をもとに授業を展開していきます。

4 成績評価方法

定期試験 80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度には、出席状況、学習意欲なども評価対象とします。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

授業の前に、その日にやる範囲の教科書を読んでおいてください。授業終了後には、その日のうちに必ず復習してください。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編 改訂第7版」南江堂
プリント資料

8 学生へのメッセージ

学問は基礎をしっかりと理解することが重要です。暗記ではなく、一つひとつを確実に理解するように、日々の学習を心掛けてください。

9 教員氏名（ 中野 仁 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所で施術管理者としての実務経験あり。）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション / 関節の構造と機能① — 解剖
2	関節の構造と機能②
3	関節の構造と機能③
4	関節損傷の概説
5	関節損傷の分類①
6	関節損傷の分類②
7	鑑別診断を要する類症
8	関節構成組織損傷（1）靭帯，関節包の損傷
9	関節構成組織損傷（2）関節周辺を通過あるいは起始停止する筋・腱の損傷
10	関節構成組織損傷（3）関節軟骨損傷
11	関節構成組織損傷（4）その他関節構成組織の損傷①
12	関節構成組織損傷（4）その他関節構成組織の損傷②
13	前期のまとめ①
14	前期のまとめ②
15	定試験解説、まとめ復習
16	脱臼：定義と概説、発生頻度
17	脱臼の分類①
18	脱臼の分類②
19	脱臼の分類③
20	脱臼の症状
21	脱臼の合併症
22	まとめ復習
23	脱臼各論 — 頭部、顔面の脱臼 A 顎関節脱臼①
24	A 顎関節脱臼②
25	B 頸椎の脱臼
26	C 胸椎の脱臼
27	まとめ復習①
28	まとめ復習②
29	まとめ復習③
30	試験解説 まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

- ・運動器の軟部組織をその形態と構造を学びながら、それらの損傷についての基礎を学習する。
- ・頭部、体幹の軟部組織損傷の各理論を学習する。
- ・講師の実務経験で得た臨床例を挙げて説明し、各損傷の要点を理解する。

2 到達目標

柔道整復師の業務範囲を理解し、各外傷の発生機序やそれらの特徴的症状などを学び、施術に繋がる基礎知識を身につける。

3 授業の方法

教科書に準じて、板書を基本に授業を進める。また、適宜必要に応じて参考資料の配布を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80%，授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度や質問の返答など、授業に対して積極的な姿勢も成績評価に加味します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に教科書の予習・復習をしてくること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編第7版」南江堂
プリント資料

8 学生へのメッセージ

柔道整復師の仕事を理解するためには、専門分野の知識を身につけなければなりません。理解力を高める為にも、授業に集中し、不明な点は後回しせずに、その都度質問をするなりして、吸収してください。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有： 柔道整復師施術所で施術管理者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (基礎柔道整復学Ⅲ)

回数	授業内容
1	オリエンテーション / 運動器の軟部組織
2	A 筋の形態と機能①
3	A 筋の形態と機能②
4	B 筋損傷の概説
5	C 筋損傷の分類①
6	C 筋損傷に分類②
7	D 筋損傷の症状、E 筋損傷の治癒機序
8	F 筋損傷の予後
9	A 腱の構造と機能①
10	A 腱の構造と機能②、 B 腱損傷の概説
11	C 腱損傷の分類①
12	C 腱損傷の分類②
13	E 腱損傷の治癒機序
14	まとめ復習
15	定期試験の解説
16	末梢神経の損傷 — A 神経の構造と機能①
17	A 神経の構造と機能②
18	B 神経損傷の概説、 C 神経損傷の分類①
19	C 神経損傷の分類② D 末梢神経の症状①
20	D 末梢神経の症状②
21	E 末梢神経の治癒過程
22	まとめ復習
23	頭部、体幹の軟部組織損傷 A 頭部、顔面部の軟部組織損傷
24	B 頸部の軟部組織損傷①
25	B 頸部の軟部組織損傷②
26	C 胸・背部の軟部組織損傷①
27	C 胸・背部の軟部組織損傷①
28	D 腰部の軟部組織損傷
29	まとめ復習
30	定期試験の解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅳ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

柔道整復師の日常業務で行える施術内容、心得を学び、基礎知識を学習し、頭部から体幹、腰部にかけての骨折について学ぶ。法（治療法）の基礎を学習する。
担当教員の実務経験を基に各外傷の特徴等を開設する。

2 到達目標

損傷時の理論を学び、習得し、将来に備えて身につける。

3 授業の方法

教科書を用いた授業を行い、資料やスライドを使用し学習する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進行計画に沿った教科書の復習を行い、教科書をただ読むだけではなく、要点をノートに書き、自分に沿ったまとめノートを作成する。

7 使用教材，教具

全国柔道整復協会編「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復師として必要な知識を習得し、国家試験合格を目指してください。

9 教員氏名（ 米田 伸一 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅳ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	治療法について
3	整復法：徒手整復時の配慮 ①整復目的の説明と理解 ②整復環境の整備
4	整復法：徒手整復時の配慮 ③既往歴ならびに他疾患との関連 ④合併症の確認
5	整復法：徒手整復時の配慮 ⑤整復手技の確認 ⑥整復手技の注意
6	骨折の整復について
7	非観血的整復の要点 ①早期の整復 ②整復とは
8	非観血的整復の要点 ③整復が不要な場合 ④整復が適応しない場合
9	整復の一般原則について
10	整復の分類について（牽引直圧・屈曲整復法）
11	脱臼の整復法について
12	脱臼の整復法（非観血的整復の要点・原則・分類）
13	軟部組織損傷の初期処置（捻挫・筋挫傷・初期処置）
14	固定法について（固定施行時の配慮・固定の目的）
15	試験返却&解説
16	頭部・体幹の骨折 / 頭部・顔面の骨折 ①-1 頭蓋骨骨折
17	頭部・体幹の骨折 / 頭部・顔面の骨折 ①-2 頭蓋骨骨折
18	脳震盪について
19	頭部・体幹の骨折 / 頭部・顔面の骨折 ①-1 顔面頭蓋骨折
20	頭部・体幹の骨折 / 頭部・顔面の骨折 ①-2 顔面頭蓋骨折
21	頸椎の骨折 ①-1 上位頸椎骨折
22	頸椎の骨折 ①-2 上位頸椎骨折
23	頸椎の骨折 ①-1 中下位頸椎骨折
24	頸椎の骨折 ①-2 中下位頸椎骨折
25	胸椎の骨折 ①-1 上部胸椎棘突起骨折
26	胸椎の骨折 ②-1 胸椎の椎体骨折
27	胸椎の骨折 ②-2 胸椎の椎体骨折
28	腰椎の骨折 ①
29	総復習
30	試験返却&解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科
学年 1年

1 授業の内容

- ・柔道整復師の後療法を学習する。
- ・指導管理を学習する。
- ・上肢骨折の各論を学習する。
- ・臨床現場で使用する物理機器などを紹介し、使用方法を説明する。
- ・実務経験のある教員による学習。

2 到達目標

柔道整復師として損傷への施術方法を学び、柔道整復術の基礎を習得する。
上肢骨折（鎖骨骨折から上腕骨骨折）の各論を学び、各損傷の理論を理解する。

3 授業の方法

教科書を用いた授業を行い、板書を中心に、スライドや資料を使って学習する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度には、出席状況や授業への取り組み方を評価に加味する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

予習は、授業進度計画に沿った教科書の内容を読むこと。毎回、授業終了後にその日のうちにノート、教科書を見直し、復習を行うこと。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復師として働くために必要な知識になり、国家試験の合格にも繋がるので、授業は集中して、理解を深めてください。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所にて施術管理者としての実務経験あり。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (臨床柔道整復学 I)

回数	授業内容
1	後療法について A 用量 B 患者の準備
2	C 手技療法①
3	C 手技療法②
4	D 運動療法①
5	D 運動療法②
6	D 運動療法③
7	E 物理療法①
8	E 物理療法②
9	E 物理療法③
10	E 物理療法④
11	指導管理 A 患者とその環境の把握 B 患者の環境に対する指導管理
12	C 自己管理に対する指導
13	まとめ復習①
14	まとめ復習②
15	試験の解説
16	上肢骨折各論 A 鎖骨骨折①
17	A 鎖骨骨折②
18	B 肩甲骨の骨折①
19	B 肩甲骨の骨折②
20	C 上腕骨近位の部骨折①
21	C 上腕骨近位の部骨折②
22	C 上腕骨近位の部骨折③
23	D 上腕骨骨幹部骨折①
24	D 上腕骨骨幹部骨折②
25	E 上腕骨遠位の部骨折①
26	E 上腕骨遠位の部骨折②
27	E 上腕骨遠位の部骨折③
28	まとめ復習①
29	まとめ復習②
30	後期定期試験

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技 I ）

学科名 スポーツ柔整科
学年 1年

1 授業の概要

- ・基本包帯法の技術を習得。
- ・各部位への包帯法の技術を習得。
- ・軟性材料、硬性材料の作成、固定法の習得。
- ・講師の実務経験から得た固定法のポイントを説明し、実践する。

2 到達目標

- ・基本包帯法、冠名包帯法、各部位の包帯固定の基礎技術を身に着ける。
- ・硬性材料の作成方法を習得する。

3 授業方法

- ・教科書を用いた講義及び講義内容に関連する実技の実践。

4 成績評価方法

- ・定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

- ・身だしなみ及び言葉遣いも評価の対象となります。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

- ・授業時間外の反復練習が技術向上の鍵です。
- ・様々な体型や体格の方、違う性別の方に包帯を巻くことも大切です。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修「包帯固定学」南江堂

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編第7版」南江堂

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・実技編第2版」南江堂

8 学生へのメッセージ

- ・包帯固定学は柔道整復師の基本であり、習得することによりテーピングなどの応用にも繋がります。臨床現場でも必要な技術であり、技術が身に付くことの楽しさを学んでほしいです。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所で施術者としての実務経験あり。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

1 1 科目名 (柔道整復実技 I)

回数	授業内容
1	前期ガイダンス
2	固定及び固定材料について
3	巻軸帯の巻き方と注意事項、巻軸帯の巻き戻し
4	基本包帯法 ①環行帯、螺旋帯、蛇行帯
5	基本包帯法 ②環行帯、螺旋帯、蛇行帯
6	基本包帯法 ③環行帯、螺旋帯、蛇行帯
7	基本包帯法 ①折転帯、亀甲帯、麦穂帯
8	基本包帯法 ②折転帯、亀甲帯、麦穂帯
9	冠名包帯法①
10	冠名包帯法②
11	冠名包帯法③
12	三角巾を用いた固定
13	基本包帯法の応用①
14	基本包帯法の応用②
15	前期試験の解説
16	各部位 肩部の包帯
17	各部位 上腕部から肘関節部の包帯
18	各部位 前腕部から手関節部の包帯
19	各部位 手指の包帯
20	各部位 下腿部から足関節部の包帯
21	硬性材料① - 厚紙副子固定 上肢
22	硬性材料② - 厚紙副子固定 下肢
23	硬性材料③ - アルフェンス固定 上肢
24	硬性材料④ - アルフェンス固定 上肢
25	硬性材料⑤ - プライトン副子固定 上肢
26	硬性材料⑥ - プライトン副子固定 下肢
27	硬性材料⑦ - キャストライト
28	硬性材料⑧ - キャストライト
29	後期まとめ
30	後期試験の解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整 科
学年 1 年

1 授業の内容

- ・柔道整復術の診察法の基礎を学ぶ。
- ・テーピングの基礎技術を学ぶ。
- ・スポーツコンディショニングの基礎実技を学ぶ。
- ・講師のスポーツ現場での実務経験を活かし、より実践的な手法を学ぶ。

2 到達目標

診察法の手順を、医療面接をもとにロールプレイなどを行いながら学んでいく。
テーピングの種類、巻き方、応用などを実技で習得する。

3 授業の方法

相互に施術者と患者になりながら、診察法の基本を、ロールプレイを通して行う。
互いにテーピングを施行し、その効果を評価し合う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

実習着は必ず着用してください。着用のない場合は減点対象となります。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

各自復習を心がけてください。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編」（改定第2版）南江堂

8 学生へのメッセージ

- ・臨床力を身に付けるために、集中して取り組んでください。
- ・実習着は常に清潔を心掛けてください。爪は短くし、装飾品（指輪、ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめるようにしてください。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所で施術管理者としての実務経験あり。）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅱ ）

回数	授業内容
1	ガイダンス：テーピング理論（1）
2	テーピング理論（2）
3	テーピングの実際：テーピング基礎（1）
4	テーピングの実際：テーピング基礎（2）
5	テーピングの実際：テーピング基礎（3）
6	上肢テーピング①
7	上肢テーピング②
8	上肢テーピング③
9	上肢テーピング④
10	下肢テーピング①
11	下肢テーピング②
12	下肢テーピング③
13	下肢テーピング④
14	前期まとめ
15	定期試験の解説
16	スポーツコンディショニングの基礎：コンディショニングとは
17	コンディショニングに関する要因
18	コンディショニングを崩す要因とは
19	コンディショニングのポイント①
20	コンディショニングのポイント②
21	プライマリーチェックの指標
22	スポーツ障害の発生要因
23	ストレッチング理論①
24	ストレッチング理論②
25	各運動領域におけるストレッチング①
26	各運動領域におけるストレッチング②
27	各運動領域におけるストレッチング③
28	各運動領域におけるストレッチング④
29	後期まとめ
30	定期試験の解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

- ・柔道整復術の各種固定法および徒手検査法を、講師の実務経験を取り入れて学ぶ。
- ・**臨床実習前の適正、適応試験の実施。**

2 到達目標

- ・柔道整復術を基本技法の固定材料の種類、特性を学び、それらの実践技術を修得する。
- ・徒手検査法の知識と技術を修得する。

3 授業の方法

実習室において実技実習を行い、施術法を体得する。

4 成績評価方法・基準

定期試験（実技 50%、筆記 30%）、授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

出欠席、容姿（実習着、髪色、爪など）、衛生材料の管理を授業態度として評価します。

6 授業時間外学習

授業進行計画を参考に、事前に内容を確認、予習をする。実習で学んだ実技内容を必ず復習する時間をつくること。繰り返しの実技演習が技術を修得す上で重要なことを認識すること。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編第7版」南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編第2版」南江堂

資料配布

8 学生へのメッセージ

- ・柔道整復術の基本である固定法の基礎を身に付ける努力をしてください。
- ・徒手検査法の技術を臨床現場で発揮できるように基礎を身に付けてください。
- ・実習実技は臨床への重要な学習手段です。全出席を目指し、施術法習得の一環として、確実に基礎が身に付くように弛まぬ努力をしてください。
- ・実習着は常に清潔にし、爪は短くし、装飾品（指輪、ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめてください。

9 教員氏名（ 中野 仁 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所で施術管理者としての実務経験あり。）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅲ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション 柔道整復師業務
2	運動器系の疼痛を訴える患者の施術：損傷の診察（1） 実技編 P5～P9
3	運動器系の疼痛を訴える患者の施術：損傷の診察（2） 実技編 P5～P9
4	運動器系の疼痛を訴える患者の施術：損傷の診察（3） 実技編 P5～P9
5	損傷の診察（視診・問診）
6	損傷の診察（触診）
7	損傷の診察（検査）
8	損傷の診察（評価）
9	体表解剖：上肢触診
10	体表解剖：下肢触診
11	体表解剖：体幹触診
12	ロールプレイングを用いた触診①
13	ロールプレイングを用いた触診②
14	前期まとめ
15	試験解説 まとめ復習
16	徒手整復の実際：骨折整復の基礎（1）
17	徒手整復の実際：骨折整復の基礎（2）
18	徒手整復の実際：脱臼整復の基礎（1）
19	徒手整復の実際：脱臼整復の基礎（2）
20	徒手整復の実際：脱臼整復の基礎（3）
21	軟部組織損傷の初期処置法（1）
22	軟部組織損傷の初期処置法（2）
23	軟部組織損傷の初期処置法（3）
24	軟部組織損傷の初期処置法（4）
25	臨床実習について（1）
26	臨床実習について（2）
27	臨床実習について（3）
28	後期まとめ復習（1）
29	後期まとめ復習（2）
30	試験解説 まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習 I ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

臨床実習施設（附属施術所他）において、見学実習を主体とした臨床実習を行う。

2 到達目標

- ・臨床現場における適切な行動・態度，そして責任感を修得することを目標とする。
- ・施術および施術所の運営（予約システム，受付，会計，スタッフとのコミュニケーション等）についても見学する。

3 授業の方法

- ・各臨床実習施設の臨床実習指導者の指示のもと，臨床現場に即した行動を実践する。
- ・実際の施術の現場や，関連する仕事の様子を見学する。一連の業務内容を理解して柔道整復師としての基本的姿勢を身に付ける。
- ・臨床実習は異なる施設で実施される。臨床実習施設へは各自が公的交通手段を利用し，決められた開始時間の20分前には施設に到着し，10分前には着替えを終了しなければならない。

4 成績評価方法・基準

出席，実習記録レポート等の提出物，各指導者による評価を総合して最終評価とする。

5 評価の際の特記事項

毎回のレポート提出は評価の基準となる。

6 授業時間外学習

日々，臨床実習に必要な基礎知識（専門基礎科目，専門科目）を学習する。

7 使用教材，教具

「実習の手引き」

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）

8 学生へのメッセージ

- ・資格取得後，就職先で実務を実践することを念頭に置いて体験，学習しましょう。
- ・時間厳守，コンプライアンスを実践し，自己責任を持って行動してください。
- ・「実習の手引き」に記載されている注意事項を厳守してください。
- ・体調不良や交通機関のトラブルなどで欠席，遅刻する場合は，必ず担当教員に連絡をしてください。

9 教員氏名（ 久野 貴史 他 専科教員 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復施術所での施術管理者としての実務経験あり。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

実務経験を有する教員が臨床実習調整者となり，臨床実習指導者が現地で担当する。臨床実習指導者は、「柔道整復師専科教員」の有資格者、または、「臨床実習指導者講習会」受講修了者に限る。

科目名 (臨床実習 I)

回数	
	2月～3月の間で、5日～9日間（45時間）の臨床実習を行う。

シラバス (授業計画書)

科目名 (解剖学Ⅱ)

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

解剖学のうち、生命活動に直接結びつく神経系、脈管系、内臓系、内分泌器、感覚器の構造について学習する。

2 到達目標

神経系、消化器・呼吸器、泌尿生殖器などの構成と特徴、心血管系の経路を説明できる力を身につけさせる。

3 授業の方法

教科書に沿って解説する。必要に応じてスライドの使用や補足資料の配付を行う。また、理解度の確認のため適宜、授業内で小テストを実施する。

4 成績評価方法・基準

小テスト成績 10%、中間試験成績・定期試験成績 90%の割合で、中間評価と後期評価を行う。

5 評価の際の特記事項

中間評価を 40%、後期評価を 60%の割合で総合評価を行う。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

シラバスに沿って授業を進めるので、その日の授業内容について教科書を読み、予習して授業に臨むこと。予習で理解できなかったことを授業で解決するよう意識し、授業後は必ずその日の内容をまとめて、知識の整理・定着に努めること。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会編「解剖学」（改定第2版） 医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

解剖学は他の科目の基礎となる重要な科目です。解剖学名の暗記が必要になりますが、生理学で学ぶ人体の機能と関連づけて理解するよう心がけてください。また、局所を断片的に勉強するだけでなく、他の部位とのつながりのなかで個々の特徴を理解することが必要です。ヒトの体は驚くほど合理的にできています。そのおもしろさに気づき、授業の範囲にとどまらず自ら学んでもらえたらと思います。

9 教員氏名（ 山邊 芳久 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

1 1 科目名 (解剖学Ⅱ)

回数	授業内容
1	6神経系 A 神経系の区分 神経組織 終脳(大脳半球) 大脳皮質の機能局在
2	6神経系 B 脳 大脳髓質 大脳基底核 間脳 中脳 橋
3	6神経系 B 脳 延髄 小脳 脳室系 髄膜と脳脊髄液
4	6神経系 C 脊髄 区分 灰白質と白質 ベル・マジャンディーの法則 反射
5	6神経系 C 脊髄 上行性伝導路 下行性伝導路 脳神経 種類と作用
6	6神経系 D 末梢神経 脊髄神経 神経叢
7	6神経系 D 末梢神経 デルマトーム 自律神経 節前線維と節後線維
8	3脈管系 A 総論 体循環と肺循環 血管の形態と構造
9	3脈管系 B 心臓 位置と形態 構造 心膜 刺激伝導系
10	3脈管系 C 心脈管系 動脈系 大動脈 頭頸部の動脈 大脳動脈輪
11	3脈管系 C 心脈管系 動脈系 上肢・胸腹部の動脈
12	3脈管系 C 心脈管系 動脈系 骨盤部・下肢の動脈
13	3脈管系 C 心脈管系 静脈系 腕頭静脈 内頸静脈 硬膜静脈洞
14	3脈管系 C 心脈管系 静脈系 骨盤部・下肢の静脈 胎児循環
15	3脈管系 D リンパ系 リンパ本管 リンパ性器官 脾臓 胸腺
16	中間試験答案返却および解説
17	4内臓系 A 消化器 消化管と消化線 消化管壁の構造 口腔 歯 唾液腺 舌
18	4内臓系 A 消化器 咽頭 食道 嚥下 腹膜
19	4内臓系 A 消化器 胃 小腸 十二指腸 空腸 回腸
20	4内臓系 A 消化器 大腸 肝臓 胆嚢 膵臓
21	4内臓系 B 呼吸器 鼻腔 喉頭 気管・気管支
22	4内臓系 B 呼吸器 気管支の分岐 肺 胸膜
23	4内臓系 C 泌尿器 腎臓 腎小体 腎単位 腎臓の血管
24	4内臓系 C 泌尿器 尿管 膀胱 尿道
25	4内臓系 D 生殖器 男性生殖器 女性生殖器
26	4内臓系 D 生殖器 卵巣と子宮の周期的変化, 胎盤
27	5内分泌系 内分泌器の働き 内分泌器 下垂体 松果体 甲状腺
28	5内分泌系 上皮小体 副腎 膵臓 精巣と卵巣
29	7感覚器 A 外皮 皮膚 筋, 腱, 関節の感覚神経
30	7感覚器 B 視覚器 眼球 網膜 副眼器 視覚路
31	7感覚器 C 聴覚器および平衡器 D 味覚器 E 嗅覚器
32	定期試験答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 生理学Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科
学年 2年

1 授業の内容

医療人として不可欠な知識である生理学の中でも循環、呼吸、尿の生成と排泄といった生命活動に直接結びつく重要な機能、また生理学全体を講義とテスト形式で学習する。

2 到達目標

授業を通じて得られた生命活動に関するキーワードについて簡単な説明ができるような知識、自分の意見等をまとめ、他人に伝える力を見につけさせる。

3 授業の方法

講義のほか、問題形式による講義内容の確認

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

定期試験による評価を全てとします。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に教科書の予習復習をしてくること、特に予習が大事である。使用教材を何度も読んで予習しておくことが特に重要である

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会編「生理学」（改定第4版）南江堂

8 学生へのメッセージ

生理学の教科書は、最初の頃は読んでも意味がわからないことが多いと思いますが、それでもあきらめないこと。授業が進むうちに次第に分かってくるようになります。

9 教員氏名（ 永松 敬 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 非常勤講師 ）

10 特記事項

通常教員による授業

1 1 科目名 (生理学Ⅱ)

回数	授業内容
1	生理学Ⅰの確認 (生理学とは、筋の生理)
2	生理学Ⅰの確認 (神経の生理、運動の生理)
3	生理学Ⅰの確認 (感覚の生理、内分泌、生殖)
4	血液 (血液の組成と成分、止血、血液型)
5	血液 (免疫)
6	骨の生理
7	循環 (心臓、血管)
8	循環 (リンパ系、循環調節)
9	呼吸の生理 (呼吸器の構造、換気)
10	呼吸の生理 (ガス交換と運搬、呼吸周期の調節)
11	尿の生成と排泄 (腎臓の行動と機能、尿の生成)
12	尿の生成と排泄 (腎血流量、排尿、腎臓による体液の調節)
13	栄養と代謝 (生体に必要な栄養素、エネルギー代謝)
14	栄養と代謝 (栄養素の代謝、食物と栄養)
15	前期のまとめ
16	前期試験 答案返却および解説
17	消化と吸収 (消化器系の構成と働き、食物の消化と吸収)
18	消化と吸収 (食物の消化と吸収、各栄養素の消化と吸収)
19	体温とその調節 (体温、熱産生、熱放散)
20	体温とその調節 (体温調節、気候順化、発熱とうつ熱)
21	高齢者の生理学的特徴、変化 (細胞、組織の加齢現象)
22	高齢者の生理学的特徴、変化 (高齢者の生理的特徴、運動と加齢)
23	発育と発達および競技者の生理的特徴、変化
24	全体のまとめ
25	全体のまとめ
26	全体のまとめ
27	全体のまとめ
28	全体のまとめ
29	全体のまとめ
30	全体のまとめ
31	全体のまとめ
32	後期試験、答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 高齢者・競技者の生理学的特徴・変化 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

臨床現場で会うことの多い高齢者の身体的・精神的特徴を理解することで、施術時の留意点を学習する。また、アスリートへの施術時に考慮すべき、競技者ならではの特徴について学習する。

2 到達目標

細胞・組織の加齢現象に伴う高齢者の生理的特徴を説明できる力、およびトレーニングによる身体機能の変化と競技による違いについて説明できる力を身につけさせる。

3 授業の方法

教科書に沿って解説する。必要に応じてスライドの使用や補足資料の配付を行う。また、理解度の確認のため適宜、授業内で小テストを実施する。

4 成績評価方法・基準

小テスト成績 10%、定期試験成績 90%の割合で評価を行う。

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

シラバスに沿って授業を進めるので、その日の授業内容について教科書を読み、予習して授業に臨むこと。予習で理解できなかったことを授業で解決するよう意識し、授業後は必ずその日の内容をまとめて、知識の整理・定着に努めること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会編「生理学」（改定第4版） 南江堂

8 学生へのメッセージ

高齢者や競技者の特徴の理解には、通常の状態の知識が基礎となる。このため、はじめに生理学内容のうち、神経の生理・筋の生理・運動の生理・感覚の生理の復習を行う。

9 教員氏名（ 山邊 芳久 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

10 特記事項

通常教員による授業

1 1 科目名 (高齢者・競技者の生理学的特徴・変化)

回数	授業内容
1	【神経の生理】 静止膜電位と活動電位 興奮伝導 全か無かの法則
2	【神経の生理】 跳躍伝導 神経線維の種類 興奮伝達 EPSP と IPSP 可塑性
3	【筋の生理】 筋線維と筋原線維 A 帯と I 帯 滑走説 興奮収縮連関
4	【筋の生理】 タイプ I とタイプ II 筋線維 【運動の生理】 錐体路 運動単位
5	【運動の生理】 反射路 筋紡錘とゴルジ腱器官 α - γ 連関
6	【運動の生理】 伸張反射 逆転伸張反射 屈曲反射 誘発筋電図 H 波と M 波
7	【運動の生理】 姿勢反射 歩行 【感覚の生理】 耳石器と半規管 深部感覚
8	【高齢者の生理学的特徴・変化】 細胞・組織の加齢現象 臓器機能の変化
9	【高齢者の生理学的特徴・変化】 運動器系・感覚器系・循環器系の変化
10	【高齢者の生理学的特徴・変化】 高齢者に多い疾患・障害 フレイル 骨粗鬆症
11	【高齢者の生理学的特徴・変化】 運動と加齢 歩行機能 歩行率 (ケイデンス)
12	【発育と発達】 成長に伴うからだや運動能力の発達 スキャモンの発育曲線
13	【高齢者の生理学的特徴・変化】 トレーニングによる筋・心肺機能の適応的变化
14	【高齢者の生理学的特徴・変化】 トレーニングによる神経機能の変化 H 反射
15	【高齢者の生理学的特徴・変化】 トレーニングによる姿勢調節能力の変化
16	定期試験答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 運動学 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

身体の運動について、その全体像を概観する。

2 到達目標

運動学的基礎知識の習得と身体運動のメカニズムについて考察できるようになる。

3 授業の方法

教科書および適宜必要に応じて参考資料の配布を行う。また、授業毎に小テストを実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に教科書の予習・復習をしてくること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会 監修 「運動学 第3版」 医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

私たちが何気なく行っている身体運動は複雑なメカニズムより構成されています。このことを理解することは、治療成績や臨床成績を向上するために必須となります。よりよい治療家となり将来の患者様の役に立つことが出来るよう、運動学の基礎を学びましょう。

9 教員氏名（ 川上 恭 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

10 特記事項

通常教員による授業

1 1 科目名 (運動学)

回数	授業内容
1	運動の表し方
2	身体運動と力学
3	運動器の構造と機能
4	神経の構造と機能
5	反射と随意運動
6	四肢と体幹の運動 (肩甲帯)
7	四肢と体幹の運動 (肘関節)
8	四肢と体幹の運動 (手関節・手部)
9	四肢と体幹の運動 (股関節)
10	四肢と体幹の運動 (膝関節)
11	四肢と体幹の運動 (股関節)
12	四肢と体幹の運動 (足関節)
13	四肢と体幹の運動 (頸椎・胸椎)
14	四肢と体幹の運動 (腰椎)
15	まとめ・試験対策
16	答案返却および解説
17	立位姿勢のランドマーク
18	立位姿勢のメカニズム・筋活動
19	歩行 (歩行周期)
20	歩行 (運動学的解析)
21	歩行 (運動力学的解析)
22	歩行 (筋活動)
23	歩行 (エネルギー代謝)
24	歩行 (走行・異常歩行)
25	運動学習 (記憶)
26	運動学習 (動機づけ・結果の知識)
27	まとめ (解剖学・生理学的基礎)
28	まとめ (四肢・体幹の運動学)
29	まとめ (立位・運動学習)
30	まとめ (歩行)
31	試験対策
32	答案返却および解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (病理学)

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

疾患が発生する基本原理を学ぶ

2 到達目標

病気とその基盤になる細胞、組織レベルの現象を結び付けて考える事ができる。

3 授業の方法

教科書に従って授業を進める。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

事前に教科書の予習を行うこと。予習することにより授業内容を理解することができ、知識が深まります。

7 使用教材，教具

「病理学」医歯薬出版株式会社

8 学生へのメッセージ

病理学の授業はじめは、教科書を読んでも分からないが、授業が進むうちに色々な部分の繋がりが分かるようになり理解が深まります。

9 教員氏名 (松永 省三)

所 属 (マツナガ歯科)

10 特記事項

通常教員による授業

1 1 科目名 (病理学)

回数	授業内容
1	病理学概要
2	病因 (内因)
3	病因 (外因)
4	循環障害 (ヒトの循環系)
5	循環障害 (充血、うつ血)
6	循環障害 (貧血、虚血)
7	循環障害 (出血)
8	循環障害 (血栓症)
9	循環障害 (塞栓症)
10	循環障害 (梗塞)
11	循環障害 (水腫、浮腫、脱水症、ショック)
12	退行性病変 (萎縮)
13	退行性病変 (変性)
14	退行性病変 (壊死と死)
15	前期まとめ
16	前期試験、答案返却および解説
17	退行性病変 (再生、化生、移動)
18	退行性病変 (創傷治療)
19	退行性病変 (組織内異物の処理)
20	炎症 (炎症の一般)
21	炎症 (炎症の分類)
22	腫瘍 (腫瘍の一般)
23	腫瘍 (良性腫瘍)
24	腫瘍 (悪性腫瘍)
25	免疫異常 (液性免疫と細胞性免疫)
26	免疫異常 (アレルギー)
27	免疫異常 (免疫不全、自己免疫異常)
28	先天性異常 (総論)
29	先天性異常 (遺伝性疾患)
30	先天性異常 (染色体異常)
31	全体のまとめ
32	後期試験、答案返却および解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (一般臨床医学 I)

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

診察 (視診、問診、聴診、触診など)、生命徴候の測定・検査 (生理機能検査など) について学修する。主要な疾患の病態、検査法、治療法、予後について学修し、一般臨床医学の理解を深める。

2 到達目標

柔道整復師の臨床に必要な知識として、基本的な診察や検査法、主要な疾患について学修し、国家試験に対応できると共に、臨床に応用できることを目標とする。

3 授業の方法

国家試験出題基準に記載されたキーワードについて、教科書、スライドを用いて解説し、学生自身がマインドマップの作成作業を通して、理解を促す。授業の最初に予習状況の確認テスト、授業の最後に演習問題を行う。

4 成績評価方法・基準

各授業における確認テストと授業態度 40%、定期試験 60%

5 評価の際の特記事項

提出物の内容、提出締切の厳守、といった内容を授業態度として評価する。

6 授業時間外学習 (予習・復習等) の具体的内容

開講期間内において、約 60 時間の授業外学修が必要になる。特に各授業時間序盤に行う予習の確認テストに対応できるように予習を中心に行うことを求める。

7 使用教材, 教具

全国柔道整復学校協会監修「一般臨床医学 (改訂第 3 版)」医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

今、皆さんが、しっかりと知識と技術を身に着けることが、患者さんの幸せに繋がる一歩です。将来に向けて、一歩ずつ着実に進んでいきましょう。

9 教員氏名 (吉田 成仁)

所 属 (立教大学スポーツウエルネス学部)

10 特記事項

通常教員による授業

1 1 科目名 (一般臨床医学 I)

回数	授業内容
1	オリエンテーション、ガイダンス
2	診察概論、診察各論 (医療面接 問診)
3	診察各論 (視診)
4	診察各論 (打診・聴診・触診)
5	診察各論 (生命徴候)
6	診察各論 (感覚検査・反射検査・生体機能検査)
7	消化器疾患：消化管疾患
8	消化器疾患：肝疾患
9	消化器疾患：胆・膵疾患
10	呼吸器疾患：肺炎、肺結核、他
11	呼吸器疾患：COPD、肺癌、他
12	循環器疾患：不整脈、心不全、他
13	循環器疾患：高血圧・動脈疾患・静脈疾患・先天性心疾患
14	前半部分の総復習 (1)
15	前半部分の総復習 (2)
16	中間試験解説
17	後半部分概論
18	血液疾患：貧血
19	血液疾患：白血病他
20	内分泌・代謝疾患：巨人症、尿崩症、他
21	内分泌・代謝疾患：クッシング症候群、アジソン病、他
22	内分泌・代謝疾患：糖尿病、痛風
23	膠原病
24	腎・尿路疾患：ネフローゼ症候群、腎不全
25	腎・尿路疾患：膀胱炎、前立腺肥大症、前立腺癌
26	神経系疾患：脳出血、脳梗塞
27	神経系疾患：パーキンソン病、ALS、他
28	環境要因による疾患 (熱中症)
29	その他の疾患
30	総復習 (1)
31	総復習 (2)
32	定期試験解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (外科学概論)

学科名 スポーツ柔整科
学年 2年

1 授業の内容

医療人として不可欠な知識である外科学概論を各分野学習する。

2 到達目標

それぞれの授業について、キーワードを少なくとも5個あげて、それについて簡単な説明ができるようになる。

3 授業の方法

教科書に従って授業を進める。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

事前に教科書の予習を行うこと。

7 使用教材，教具

外科学概論 改訂第4版（南江堂）

8 学生へのメッセージ

外科学を体系的に学ぶ最後の期会になると思います。大事なことをスライドで解説します。

9 教員氏名 (丸山 祐一郎)

所 属 (佐世保共済病院)

10 特記事項

通常教員による授業

1 1 科目名 (外科学概論)

回数	授業内容
1	損傷
2	炎症と外科感染症
3	腫瘍
4	ショック
5	消毒
6	消化器癌、腹部外科疾患
7	小腸・大腸の解剖、疾患
8	肝疾患
9	外傷
10	出血、外傷
11	輸血、点滴
12	胆石
13	腹部外科
14	外科まとめ①外科感染症
15	外科まとめ②腹部外科疾患
16	定期試験 答案返却・解説

シラバス (授業計画書)

科目名(整形外科学)

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1. 授業の内容

総論では、整形外科診察法、整形外科検査法、整形外科治療法、骨関節損傷総論などについての学習。また各論では、疾患別・身体部位別に学習していく。

2. 到達目標

- 1) 総論では、運動器についての基礎知識、代表的な整形外科診察法、整形外科検査法、整形外科治療法などについての理解を深める。
- 2) 各論では、整形外科疾患の概念、定義、疫学、病因、病態、症状、検査所見、治療法、予後などを理解していく。

3. 授業の方法

プリントを配布後、パワーポイントを使用しての講義を行う。

4. 成績評価方法・基準

基本的には定期試験 100%にて評価をするが、授業出席率・授業態度も加味する。

5. 評価の際の特記事項

特になし。

6. 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

分量が非常に多い科目ですので、一気に覚えるのはとても難しいと思います。
授業時に話したポイントに関してはこまめに復習し、覚えるようにしてください。

7. 使用教材

社団法人全国柔道整復学校協会監修：整形外科学 改訂第3版，南江堂。
配布プリント

8. 学生へのメッセージ

覚えるべき分量が多い科目ですが、各整形外科疾患の知識を深め、国家試験だけでなく、資格取得後、臨床の場においても応用できる知識を身につけていきましょう。

9. 教員名 (川上 恭)

所属 (ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科)

10. 特記事項

通常教員による授業

1 1 科目名(整形外科学)

回数	授業内容
1	オリエンテーション、整形外科とは
2	整形外科学の診察法・診断法
3	整形外科学の検査法・治療法
4	疾患別各論 感染性疾患
5	疾患別各論 骨及び軟部腫瘍
6	疾患別各論 非感染性軟部・骨関節疾患
7	疾患別各論 全身性の骨・軟部疾患、
8	ここまでのまとめ
9	疾患別各論 骨端症
10	疾患別各論 四肢循環障害、下肢の神経麻痺、
11	疾患別各論 上肢の神経麻痺、神経障害
12	全身性の神経、筋疾患
13	手指の変形
14	身体部位別各論、腰部・膝
15	全範囲のまとめ
16	答案返却及びその解説授業

シラバス（授業計画書）

科目名（ リハビリテーション医学 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

リハビリテーションの概要と、各疾患における考え方について概説する。

2 到達目標

リハビリテーションの理念と各疾患に対する考え方を理解することができる。

3 授業の方法

PC プロジェクタを利用したパワーポイントによる講義のほか、講義毎に小テストを実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に教科書の予習・復習をしてもらうこと。

7 使用教材，教具

社団法人全国柔道整復学校協会 監修，リハビリテーション医学 改訂第3版，南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復を学ぶ上で馴染みが薄いと思われるリハビリテーションの概念ですが、柔道整復師も施設で機能訓練士として働くこともできます。そのため患者様のよりよい日常生活や高いQOLの獲得に向けて、一緒にその概念や考え方を学びましょう。

9 教員氏名（ 三根 立己 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

10 特記事項

通常教員による授業

1 1 科目名 (リハビリテーション医学)

回数	授業内容
1	オリエンテーション, リハビリテーション概論
2	リハビリテーション関連職種
3	リハビリテーション基礎医学 (解剖学・運動学)
4	リハビリテーション基礎医学 (障害学)
5	リハビリテーション基礎医学 (治療学)
6	評価と診断 (問診)
7	評価と診断 (身体計測)
8	評価と診断 (関節可動域測定)
9	評価と診断 (MMT)
10	評価と診断 (痙縮・協調性)
11	評価と診断 (高次脳機能障害)
12	評価と診断 (認知機能・ADL)
13	評価と診断 (画像)
14	まとめ (リハビリテーションの概念, 傷害・治療)
15	まとめ (評価)
16	疾患別リハビリテーションの概念
17	リハビリテーション (脳血管疾患の概要)
18	リハビリテーション (脳血管の実際)
19	リハビリテーション (脊髄損傷の概要)
20	リハビリテーション (脊髄損傷の実際)
21	リハビリテーション (切断の概要)
22	リハビリテーション (切断の実際)
23	リハビリテーション (末梢神経障害の概要)
24	リハビリテーション (末梢神経障害の実際)
25	リハビリテーション (運動器疾患の概要)
26	リハビリテーション (運動器疾患の実際)
27	リハビリテーション (内部疾患・高齢者の概要)
28	リハビリテーション (内部疾患・高齢者の実際)
29	まとめ (リハビリテーション: 脳血管疾患、脊髄損傷、切断)
30	まとめ (リハビリテーション: 末梢神経障害・運動器疾患・内部障害)
31	試験対策
32	解答・解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

- ①技能内容（基本動作、对人的技能、試合）
- ②態度の内容（伝統的な行動の仕方、社会的態度）
- ③学び方の内容（課題の解決の仕方）

2 到達目標

柔道審査項目合格

3 授業の方法

- 第1ステージ 基本動作の習得、得意技を身に付ける
- 第2ステージ 形、試合を学び柔道実技審査合格

4 成績評価方法・基準

実技 80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

競技目的の柔道を教育するものではなく、機能的特性、構造的特性を育てたいと考えているので、実技試験並びに真面目に授業に参加する姿勢を評価する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実技練習は危険の為、プリントを配布して柔道の基礎的知識を学んでもらう。

7 使用教材，教具

柔道事故データブック、柔道の安全指導、柔道の授業作り、柔道の形、講道館形、技DVDなど

8 学生へのメッセージ

武道固有の内容から、相手を尊重する態度や正しい礼法を学んでほしい。

9 教員氏名（ 宮田 哲弘 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

10 特記事項

怪我、病気者は道着を着て、授業を見学することで出席とする。
通常教員による授業。

1 1 科目名 (柔道Ⅱ)

回数	授業内容
1	体ほぐしの運動の捉え方
2	自然本体、自護本体、進退動作、受身、崩しの方法と方向等の復習
3	投げ技 — 手技 (体落とし) 受身の必要性を理解させる
4	投げ技 — 手技 (背負い投げ) 伝統的な行動の仕方
5	投げ技 — 腰技 (大腰) 社会的態度、健康、安全にかかわる態度
6	投げ技 — 腰技 (釣り込み腰) すかし技
7	投げ技 — 腰技 (払い腰) 柔道着カラー化の歴史的流れ
8	投げ技 — 腰技 (跳ね腰) 山嵐
9	投げ技 — 足技 (膝車) 日本書記に記された柔道と相撲の起源
10	投げ技 — 足技 (支え釣り込み足) 柔道と柔術の違い
11	投げ技 — 足技 (大外刈り) 柔道着の規格
12	投げ技 — 足技 (大内刈り) 柔道事故と防ぎ方
13	投げ技 — 足技 (小内刈り) 初段を取る為には
14	投げ技 — 足技 (出足払い) 投げ技から投げ技への変化技
15	技 — 内股 投げ技から固め技への変化技 前期まとめ
16	定期試験、答案返却および解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (柔道Ⅲ)

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

- ①技能内容 (応用動作、对人的技能、試合)
- ②態度の内容 (伝統的な行動の仕方、社会的態度)
- ③認定実技審査要領

2 到達目標

柔道審査項目合格

3 授業の方法

- 第1ステージ 基本動作の習得、得意技を身に付ける
- 第2ステージ 形、試合を学び柔道実技審査合格
- 第3ステージ 礼儀作法

4 成績評価方法・基準

実技 80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

競技目的の柔道を教育するものではなく、機能的特性、構造的特性を育てたいと考えているので、実技試験並びに真面目に授業に参加する姿勢を評価する

6 授業時間外学習 (予習・復習等) の具体的内容

実技練習は危険の為、プリントを配布して柔道の基礎的知識を学んでもらう。

7 使用教材, 教具

柔道事故データブック、柔道の安全指導、柔道の授業作り、柔道の形、講道館形、技DVDなど

8 学生へのメッセージ

武道固有の内容から、相手を尊重する態度や正しい礼法を学んで認定実技審査にむきあってほしい。

9 教員氏名 (宮田 哲弘)

所 属 (ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科)

10 特記事項

怪我、病気者は道着を着て、授業を見学することで出席とする
通常教員による授業。

1 1 科目名 (柔道Ⅲ)

回数	授業内容
1	技 — 送り足払い 前足から後足の体重移動
2	技 — 隅落とし 移動打込
3	技 — 足車 追込み打込
4	打込の応用、連続掛
5	乱取と組み手のポイント
6	相四つとケンカ四つ
7	試合の基本的ルーツ
8	試合のルール 試合について
9	試合のルール 試合場について
10	試合のルール 技の判定について
11	試合のルール 反則について
12	試合のルール 反則になる禁止行為について
13	試合のルール 講道館審判規定 国際審判規定
14	試合のルール 講道館審判規定 国際審判規定
15	試合のルール 少年ルール 審判の合図 後期まとめ
16	定期試験、答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 2 年

1 授業の内容

上肢骨折について学び、実践力を備えた人材へと成長を促す。また担当教員の実務経験を基に各外傷の特徴等を解説する。

2 到達目標

柔道整復師として上肢骨折の診察、治療が行えるようになる知識や技術を身につける。

3 授業の方法

教科書に準じて、板書を基本に授業を進める。また、適宜必要に応じて参考資料の配布を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験にて評価を行う。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の復習により長期記憶が身につくため教科書を反復学習し、わからない部分を無くしていくことを推奨する。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編第7版」南江堂
プリント資料

8 学生へのメッセージ

覚えることが多い科目ですが国家試験の出題頻度も高いので、知識と理解を深めていきましょう。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所において施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

1 1 科目名 (基礎柔道整復学Ⅲ)

回数	授業内容
1	鎖骨骨折 1
2	鎖骨骨折 2
3	肩甲骨骨折
4	上腕骨骨折 (骨頭骨折・解剖頸骨折)
5	上腕骨骨折 (外科頸骨折 1)
6	上腕骨骨折 (外科頸骨折 2)
7	大結節骨折・小結節骨折
8	上腕骨骨幹部骨折 1
9	上腕骨骨幹部骨折 2
10	上腕骨顆上骨折 1
11	上腕骨顆上骨折 2
12	上腕骨外顆骨折
13	上腕骨内側上顆骨折
14	橈骨近位端部骨折
15	肘頭骨折
16	答案返却および解説
17	橈骨骨幹部骨折
18	尺骨骨幹部骨折
19	モンテギア骨折
20	橈・尺骨両骨骨幹部骨折
21	コーレス骨折
22	スミス骨折
23	バートン骨折・ショーファー骨折
24	舟状骨骨折
25	三角骨骨折・有鉤骨骨折・豆状骨骨折
26	月状骨骨折・大菱形骨骨折・有頭骨骨折
27	中手骨骨折 (骨頭部骨折・頸部骨折・骨幹部骨折) ・ベネット骨折
28	基節骨骨折
29	中節骨骨折
30	末節骨骨折
31	試験対策
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅳ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

各損傷の復習を行い，理解力を深める

2 到達目標

各損傷を理解し，損傷症状から重症度を判断できるように身に着けることを目標とする

3 授業の方法

配布プリントおよび教科書による講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿った教科書の復習をしていくこと。

7 使用教材，教具

柔道整復学・理論編（改訂第7版）

8 学生へのメッセージ

復習を実施し，自己の理解度を確認し，学習方法を確立しましょう

9 教員氏名（ 米田 伸一 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 有 ： 柔道整復施術所にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅳ ）

回数	授業内容
1	頭部の骨折
2	顔面の骨折
3	頸椎の骨折（上位）
4	頸椎の骨折（下位）
5	胸椎の骨折
6	腰椎の骨折
7	胸部の骨折（肋骨骨折）
8	胸部の骨折（肋軟骨骨折）
9	胸部の骨折（胸骨骨折）
10	顎関節の脱臼
11	顎関節の脱臼
12	頸椎の脱臼
13	胸椎の脱臼
14	腰椎の脱臼
15	総復習
16	試験返却&解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅷ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

外傷の診察方法，治療法，患者の指導管理を学び，臨床現場に活用できる知識を習得する。

2 到達目標

柔道整復師が業務として取り扱う損傷についての基礎を理解することを目標とする

3 授業の方法

配布プリント、教科書を用いた講義形式で行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿った教科書の復習を行うこと。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編第7版」南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編第2版」南江堂

8 学生へのメッセージ

今後の柔整師としての活動に非常に必要になるので、しっかりと覚えておくこと。

9 教員氏名（ 米田 伸一 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 有 ：柔道整復施術所にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

1 1 科目名 (基礎柔道整復学Ⅷ)

回数	授業内容
1	柔道整復師業務・骨折、脱臼、軟損の施術
2	損傷の診察(骨折)
3	損傷の診察(脱臼)
4	損傷の診察(軟損)
5	医科との連携・固定期間の検討
6	後療法
7	肩部の診察をする時の考え方(打撃による損傷)
8	肩部の診察をする時の考え方(その他による損傷)

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2 年

1 授業の内容

柔道整復師の資格取得に必要な下肢骨折についての知識を深める。また、担当教員の実務経験を基にした患者への接遇（インフォームドコンセント）、診察方法、施術などの実践力を身に付ける。

2 到達目標

下肢骨折について発生機序、症状（診察内容）、施術方法（整復・固定・後療法など）、予後・注意点などを理解する。

3 授業の方法

柔道整復学（理論編・実技編）などの教科書を用いて行う講義や模範実技による。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%にて評価する

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿った教科書の予習・復習を行うと良い。また、実技に関しては忘却しないよう繰り返し復習を行うと良い。

7 使用教材，教具

柔道整復学（理論編・実技編）、包帯固定学など

8 学生へのメッセージ

国家試験受験や柔道整復師として従事するために、重要かつ必要な知識のため、深い理解が必要です。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 有 ：柔道整復師施術所において施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

11 科目名 (臨床柔道整復学Ⅲ)

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	骨盤骨骨折 (単独 Fr)
3	骨盤骨骨折 (骨盤輪 Fr)
4	大腿骨近位端部骨折 (骨頭 Fr)
5	大腿骨近位端部骨折 (頸部 Fr)
6	大腿骨近位端部骨折 (転子部 Fr)
7	大腿骨骨幹部骨折①
8	大腿骨骨幹部骨折②
9	大腿骨遠位端部骨折 (顆上 Fr)
10	大腿骨遠位端部骨折 (骨端線離開)
11	大腿骨遠位端部骨折 (顆部 Fr)
12	膝蓋骨骨折
13	予備・復習 (1)
14	予備・復習 (2)
15	予備・復習 (3)
16	試験解説
17	下腿骨近位端部骨折 (脛骨顆部 Fr)
18	下腿骨近位端部骨折 (腓骨頭 Fr)
19	下腿骨骨幹部骨折①
20	下腿骨骨幹部骨折②
21	下腿骨疲労骨折
22	果部骨折①
23	果部骨折②
24	果部骨折③
25	距骨骨折
26	踵骨骨折
27	舟状骨・立方骨・楔状骨骨折
28	中足骨骨折
29	足趾骨折
30	予備・復習 (1)
31	予備・復習 (2)
32	試験解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (臨床柔道整復学Ⅳ)

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

上肢及び下肢の脱臼についての各論を学習する。担当教員の実務経験を基にした、診察方法、施術などを臨床症状、鑑別なども取り入れて学習する。

2 到達目標

上肢及び下肢の脱臼について発生機序、症状（診察内容）、施術方法（整復・固定・後療法など）、予後・注意点などを理解する。

3 授業の方法

板書を中心に、参考資料等を用いた講義を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80%、授業態度 20%にて評価する。

5 評価の際の特記事項

授業態度には出席状況、授業態度、小テストの結果などを加味する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

毎回の授業終了後に復習を徹底する。これから学習する箇所を、教科書を読み、予習をする。

7 使用教材， 教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編第7版」南江堂
プリント資料

8 学生へのメッセージ

柔道整復術を習得するためには、各損傷の理論を学習し、理解度を深めなければなりません。日々の自学習を徹底し、理解が難しいところは教員に質問し、不明なままで放置しないようにしましょう。

9 教員氏名（ 中野 仁 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 有 ： 柔道整復施術所にて施術管理者として実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (臨床柔道整復学Ⅳ)

回数	授業内容
1	脱臼総論の復習
2	胸鎖関節前方脱臼
3	肩鎖関節上方脱臼 (1)
4	肩鎖関節上方脱臼 (2)
5	肩関節脱臼：前方脱臼 (1)
6	肩関節前方脱臼 (2) 反復性脱臼
7	肩関節後方脱臼、下方脱臼、上方脱臼
8	肩関節脱臼のまとめ
9	肘関節脱臼：前腕両骨脱臼 — 後方脱臼 (1)
10	肘関節後方脱臼 (2)
11	肘関節前方脱臼、側方脱臼、分散脱臼
12	肘関節脱臼のまとめ
13	橈骨頭単独脱臼、肘内障 (1)
14	肘内障 (2)
15	前期のまとめ
16	試験解説
17	手関節日の脱臼：遠位橈尺関節脱臼
18	橈骨手根関節脱臼
19	月状骨脱臼および月状骨周囲脱臼
20	手根中手 (CM) 関節脱臼、第1指中手指節 (MP) 関節脱臼
21	第1指以外の中手指節 (MP) 関節脱臼、近位指節間 (PIP) 関節脱臼
22	遠位指節間 (DIP) 関節脱臼
23	股関節脱臼 (1)
24	股関節脱臼 (2)
25	膝蓋骨脱臼
26	膝関節脱臼
27	足部脱臼
28	下肢脱臼のまとめ (1)
29	下肢脱臼のまとめ (2)
30	脱臼全般のまとめ (1)
31	脱臼全般のまとめ (2)
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅸ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

実技室を施術所と想定して、物理療法の実技の授業を実施する。また担当教員の実務経験を基に各機器の効果的な使用方法も解説する。

2 到達目標

物理療法の機器の効果を理解し安全に使用することができる。

3 授業の方法

PCプロジェクタを利用したパワーポイントによる講義。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

前回の授業内容を復習し、これまでの知識を活かして授業に臨む。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編第7版」南江堂

8 学生へのメッセージ

教員の実体験も交えて授業行います。臨床現場において、物理療法機器は使用頻度の高いものなので、内容を理解し、安全で効果の高い使用方法を学びましょう。

9 教員氏名（ 米田 伸一 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 有 ：柔道整復施術所にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

1 1 科目名 (臨床柔道整復学Ⅸ)

回数	授業内容
1	物理療法の分類
2	低周波電気刺激療法
3	中周波電流療法
4	温熱療法
5	超音波療法
6	光線療法
7	牽引療法
8	総復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

軟部組織損傷について、上肢、下肢の各論を学習する。

2 到達目標

損傷の総論を基礎に、軟部組織損傷の各論を理解し、それらの施術方法を学ぶ。

3 授業の方法

各損傷の理論を板書により進め、その治療法の基礎を実技を交えて学習する。

4 成績評価方法

定期試験 80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度には出欠席状況も加味する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

毎回の授業終了後、その日のうちに復習すること。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会編「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

全国柔道整復学校協会編「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂

8 学生へのメッセージ

臨床の場で遭遇しやすい軟部組織損傷の基礎を学び現場へと活かして欲しいです。

担当教員が実際に現場で経験した症例を交えているので、将来の臨床の場で対応できる知識を習得して下さい。

9 教員氏名（ 中野 仁 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 有 ：柔道整復施術所にて施術管理者として実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業

1 1 科目名 (柔道整復実技Ⅱ)

回数	授業内容
1	上肢の軟部組織損傷：肩関節部の軟部組織損傷（1）P350～P361
2	肩関節部の軟部組織損傷（2）P350～P361
3	肩関節部の軟部組織損傷（3）P350～P361
4	肘関節部の軟部組織損傷（1）P361～P365
5	肘関節部の軟部組織損傷（2）P361～P365
6	前腕部の軟部組織損傷（1）P365～369
7	前腕部の軟部組織損傷（2）P365～369
8	前腕部の軟部組織損傷（3）P365～369
9	手関節部の軟部組織損傷（1）P370～P373
10	手関節部の軟部組織損傷（2）P370～P373
11	手部、指部の軟部組織損傷（1）P373～379
12	手部、指部の軟部組織損傷（2）P373～379
13	手部、指部の軟部組織損傷（3）P373～379
14	前期のまとめ1
15	前期のまとめ2
16	定期試験解説
17	下肢の軟部組織損傷：股関節の軟部組織損傷（1）P380～P383
18	股関節の軟部組織損傷（2）P380～P383
19	大腿部の軟部組織損傷（1）P383～P386
20	大腿部の軟部組織損傷（2）P383～P386
21	膝関節の軟部組織損傷（1）P386～P394
22	膝関節の軟部組織損傷（2）P386～P394
23	膝関節の軟部組織損傷（3）P386～P394
24	下腿部の軟部組織損傷（1）P394～396
25	下腿部の軟部組織損傷（2）P394～396
26	足関節部の軟部組織損傷（1）P396～P406
27	足関節部の軟部組織損傷（2）P396～P406
28	足関節部の軟部組織損傷（3）P396～P406
29	後期のまとめ1
30	後期のまとめ2
31	後期のまとめ3
32	定期試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

臨床実習施設において、見学実習を主体とした臨床実習を行う。

2 到達目標

- ・臨床現場における適切な行動・態度，そして責任感を修得することを目標とする。
- ・施術および施術所の運営（予約システム，受付，会計，スタッフとのコミュニケーション等）についても見学する。

3 授業の方法

- ・各臨床実習施設の臨床実習指導者の指示のもと，臨床現場に即した行動を実践する。
- ・実際の施術の現場や，関連する仕事の様子を見学する。一連の業務内容を理解して柔道整復師としての基本的姿勢を身に付ける。
- ・臨床実習は異なる施設で実施される。臨床実習施設へは各自が公的交通手段を利用し，決められた開始時間の20分前には施設に到着し，10分前には着替えを終了しなければならない。

4 成績評価方法・基準

出席，実習記録，レポート等の提出物，各指導者による評価を総合して最終評価とする。

5 評価の際の特記事項

毎回のレポート提出は評価の基準となる。

6 授業時間外学習

日々，臨床実習に必要な基礎知識（専門基礎科目，専門科目）を学習する。

7 使用教材，教具

「実習の手引き」

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編第7版」

8 学生へのメッセージ

- ・資格取得後，就職先で実務を実践することを念頭に置いて体験，学習しましょう。
- ・時間厳守，コンプライアンスを実践し，自己責任を持って行動してください。
- ・体調不良や交通機関のトラブルなどで欠席，遅刻する場合は，必ず担当教員に連絡をしてください。無断欠席や遅刻は評価に影響します。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 有 ：柔道整復師施術所において施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験を有する教員が臨床実習調整者となり，臨床実習指導者が現地で担当する。

1 1 授業計画 科目名 (臨床実習Ⅱ)

回数	
	8月～9月の間で、9日間（45時間）の臨床実習を行う。

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

臨床実習施設において、見学実習を主体とした臨床実習を、実務経験のある教員、臨床実習指導者の指導の下、行う。

2 到達目標

- ・臨床現場における適切な行動・態度、そして責任感を修得することを目標とする。
- ・施術および施術所の運営（予約システム、受付、会計、スタッフとのコミュニケーション等）についても見学する。

3 授業の方法

- ・各臨床実習施設の臨床実習指導者の指示のもと、臨床現場に即した行動を実践する。
- ・実際の施術の現場や、関連する仕事の様子を見学する。一連の業務内容を理解して柔道整復師としての基本的姿勢を身に付ける。
- ・臨床実習は異なる施設で実施される。臨床実習施設へは各自が公的交通手段を利用し、決められた開始時間の20分前には施設に到着し、10分前には着替えを終了しなければならない。

4 成績評価方法・基準

出席、実習記録、レポート等の提出物、各指導者による評価を総合して最終評価とする。

5 評価の際の特記事項

毎回のレポート提出は評価の基準となる。

6 授業時間外学習

日々、臨床実習に必要な基礎知識（専門基礎科目、専門科目）を学習する。

7 使用教材、教具

「実習の手引き」

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編第7版」

8 学生へのメッセージ

- ・資格取得後、就職先で実務を実践することを念頭に置いて体験、学習しましょう。
- ・時間厳守、コンプライアンスを実践し、自己責任を持って行動してください。
- ・体調不良や交通機関のトラブルなどで欠席、遅刻する場合は、必ず担当教員に連絡をしてください。無断欠席や遅刻は評価に影響します。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 有 ：柔道整復施術所にて施術管理者として実務経験あり）

10 特記事項

実務経験を有する教員が臨床実習調整者となり、臨床実習指導者が現地で担当する。

1 1 科目名 (臨床実習Ⅲ)

回数	授業計画
	2月～3月の間で、9日間（45時間）の臨床実習を行う。

シラバス（授業計画書）

科目名（ 一般臨床医学Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

診察（視診、問診、聴診、触診など）、生命徴候の測定・検査（生理機能検査など）について学修する。主要な疾患の病態、検査法、治療法、予後について学修し、一般臨床医学の理解を深める。

2 到達目標

柔道整復師の臨床に必要な知識として、基本的な診察や検査法、主要な疾患について学修し、国家試験に対応できると共に、臨床に応用できることを目標とする。

3 授業の方法

過去の問題演習を中心に行いながら、国家試験出題基準に記載されたキーワードについて解説する。学生自身が学習ポイントをマインドマップの作成作業を通して整理する。

4 成績評価方法・基準

各授業における確認テストと授業態度 40%、定期試験 60%

5 評価の際の特記事項

提出物の内容、提出締切の厳守、といった内容を授業態度として評価する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

開講期間内において、約 60 時間の授業外学修が必要になる。特に各授業において問題演習を中心に行うため、問題演習に対応できるように予習を中心に行うことを求める。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「一般臨床医学」（改訂第3版）医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

今、皆さんが、しっかりと知識と技術を身に着けることが、患者さんの幸せに繋がる一歩です。将来に向けて、一歩ずつ着実に進んでいきましょう。

9 教員氏名（ 吉田 成仁 ）

所 属（ 立教大学スポーツウエルネス学部 ）

10 特記事項

通常教員による授業

1 1 科目名 (一般臨床医学Ⅱ)

回数	授業内容
1	オリエンテーション、ガイダンス
2	診察概論、診察各論 (医療面接)
3	診察各論 視診・打診・聴診・触診・生命徴候
4	検査法 生命徴候の測定・生理機能検査・検体検査・各検査の基準値
5	消化器疾患
6	呼吸器疾患
7	循環器疾患
8	血液疾患
9	内分泌・代謝疾患
10	膠原病
11	腎・尿路疾患
12	神経系疾患
13	環境要因による疾患、その他の疾患
14	総復習
15	定期試験
16	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道Ⅳ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

柔道整備師養成施設指導ガイドラインに定めるところの認定実技審査合格の為の指導

2 到達目標

柔道審査項目合格

3 授業の方法

実技項目、評価 1～5 を順に通し練習

口頭試問の出題項目練習

4 成績評価方法・基準

実技試験 80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

競技目的の柔道を教育するものではなく、機能的特性、構造的特性を育てたく考えているので、実技試験並びに真面目に授業に参加する姿勢を評価する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実技練習は危険の為、プリントを配布して柔道の基礎的知識を学んでもらう。

7 使用教材、教具

柔道事故データブック、柔道の安全指導、柔道の授業作り、柔道の形、講道館形、技 DVD 等

8 学生へのメッセージ

柔道の理念（修心、体育、勝負法）を学んでほしい。

9 教員氏名（ 宮田 哲弘 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

10 特記事項

通常教員による授業

怪我、病気者は道着を着て、見学した際は出席とする。

1 1 科目名 (柔道Ⅳ)

回数	授業内容
1	卒業認定試験の為の礼法 (立礼、座礼)
2	卒業認定試験の為の道着の着こなし方
3	卒業認定試験の為の形 (浮落)
4	卒業認定試験の為の形 (背負投)
5	卒業認定試験の為の形 (肩車)
6	卒業認定試験の為の形 (浮腰)
7	卒業認定試験の為の形 (払腰)
8	卒業認定試験の為の形 (釣込腰)
9	卒業認定試験の為の形 (送足払) 口頭試問 (柔道について)
10	卒業認定試験の為の形 (支釣込腰) 口頭試問 (嘉納治五郎師範について)
11	卒業認定試験の為の形 (内股) 口頭試問 (講道館ルールと国際ルールの違い)
12	卒業認定試験の為の試合 - 始め
13	卒業認定試験の為の試合 - 相手との間合い
14	卒業認定試験の為の試合 - 崩し、残身
15	卒業認定試験の為の試合 - 投げた際の声の出し方 全体のまとめ
16	試験返却&解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅴ ）

学科名 スポーツ柔整科
学年 3年

1 授業の内容

これまでに学習した軟部組織損傷の発生機序、症状、治療法の復習と運動学をベースとした後療法（運動療法）の実践方法を学ぶ。

実務経験のある教員による臨床に対応できる基礎技術を学ぶ。

2 到達目標

軟部組織損傷の発生機序、症状、治療法を理解する。

人体の基本的構造を理解し、治療方法のプログラムを組立てることができる。

3 授業の方法

板書を中心とした講義。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度には出欠席状況も加味する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

毎回授業の終了後にその日の授業内容を復習すること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会編「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

全国柔道整復学校協会編「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂

8 学生へのメッセージ

外傷の各論を理解し、その治療法の基礎を身に着けることで、応急手当につながります。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 有 ：柔道整復施術所にて施術管理者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業

1 1 科目名 (基礎柔道整復学V)

回数	授業内容
1	柔道整復術における診察
2	肩腱板損傷
3	上腕二頭筋長頭腱損傷
4	野球肩 (リトルリーガー肩を含む)
5	肩部の診察術
6	上腕部における神経障害
7	テニス肘
8	野球肘
9	前腕部の腱鞘炎
10	腱交叉症候群
11	手根骨における障害 (外傷、壊死、非外傷性を含む)
12	手指部における退行性変性
13	上肢の診察 (復習)
14	上肢の診察の実技練習 1
15	上肢の診察の実技練習 2
16	試験解説
17	鼠径部痛症候群
18	小児の股関節疾患
19	股関節から大腿部における神経障害
20	大腿四頭筋肉離れ
21	大腿ハムストリングス
22	膝半月板損傷
23	膝側副靭帯損傷
24	膝前十字靭帯損傷
25	股関節から大腿部診察術
26	下腿部から足部における神経障害
27	下腿肉離れ
28	足関節捻挫
29	下肢の診察 (復習)
30	下肢の診察の実技練習 1
31	下肢の触診の実技練習 2
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学VI ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

柔道整復師として業務に必要な外傷一般に対する実践的な知識を深めるため、実務経験のある教員による基礎学習を行う。

2 到達目標

柔道整復師として外傷一般に対する診察、治療、鑑別についての基礎的知識を習熟する。

3 授業の方法

教科書を用いた授業を行い、担当教員の実務経験を基に実務に必要な技術、知識の基礎的要素の習得を促す。国家試験過去問題集も使用する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業前の教科書熟読、対応する国家試験問題の予習をしてもらうこと。授業後も復習をしてもらう

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復師として施術を行うためには本当に多くの知識が必要であると実感している。教科書はその修得のための基礎的なバイブルであり、国家試験問題はその中でも重要なエッセンスを抽出した重要な臨床の指針と考える。そしてこれらを習得することが臨床力の向上につながるという担当教員の実体験も交えて、国家試験にも対応できる授業内容としていく。

9 教員氏名（ 林 慶彰 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 有 ： 柔道整復施術所にて施術管理者として実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

1 1 科目名 (基礎柔道整復学VI)

回数	授業内容
1	先天性疾患と後天性疾患の鑑別
2	退行性病変の鑑別
3	循環障害の鑑別
4	炎症の鑑別
5	腫瘍の鑑別
6	健康の概念
7	疫学的思考
8	衛生統計
9	医療廃棄物の処理
10	運動の法則
11	運動感覚
12	姿勢
13	運動発達と運動学習
14	外科感染症の鑑別
15	輸血・輸液
16	テスト返却及び解説
17	移植と免疫
18	心肺蘇生法
19	胸部外科疾患の鑑別
20	運動器の基礎知識
21	骨および軟部腫瘍の鑑別
22	全身性の骨・軟部疾患の鑑別
23	スポーツ障害の鑑別
24	身体各部位各論・体幹疾患の鑑別
25	身体各部位各論・骨盤・下肢疾患の鑑別
26	医療面接
27	打診
28	呼吸器疾患の鑑別
29	消化器疾患の鑑別
30	血液疾患の鑑別
31	性病の鑑別
32	テスト返却及び解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅶ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

柔道整復師として、業務に必要な外傷一般に対する実践的な知識を深めるため、実務経験のある教員による基礎学習を行う。

2 到達目標

柔道整復師として外傷一般に対する診察、治療、鑑別についての基礎的知識を習熟する。

3 授業の方法

教科書を用いた授業を行い、担当教員の実務経験を基に業務に必要な技術、知識の基礎的要素の習得を促す。国家試験過去問題集も使用する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業前の教科書熟読、対応する国家試験問題の予習をしてくること。授業後も復習をしてもらう

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復師として施術を行うためには本当に多くの知識が必要であると実感している。教科書はその修得のための基礎的なバイブルであり、国家試験問題はその中でも重要なエッセンスを抽出した重要な臨床の指針と考える。そしてこれらを習得することが臨床力の向上につながるという担当教員の実体験も交えて、国家試験にも対応できる授業内容としていく。

9 教員氏名（ 林 慶彰 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 有 ： 柔道整復施術所にて施術管理者として実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

1 1 科目名 (基礎柔道整復学Ⅶ)

回数	授業内容
1	病因による鑑別
2	代謝障害の鑑別
3	進行性病変の鑑別
4	免疫異常の鑑別
5	先天性異常の鑑別
6	疾病予防
7	感染症対策
8	成人保健
9	消毒
10	運動器の構造と機能
11	反射と随意運動
12	四肢と体幹の運動
13	損傷と創傷と熱傷
14	ショック
15	消毒と滅菌
16	試験返却及び解説
17	出血と止血
18	脳神経外科疾患の鑑別
19	腹部外科疾患の鑑別
20	整形外科的検査法
21	非感性感性軟部・骨関節疾患の鑑別
22	感性感性疾患の鑑別
23	スポーツ外傷の鑑別
24	身体各部位各論・肩甲骨・上肢疾患の鑑別
25	問診
26	視診
27	聴診
28	循環器疾患の鑑別
29	代謝疾患の鑑別
30	内分泌疾患の鑑別
31	膠原病の鑑別
32	試験返却及び解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅴ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

脱臼について、総論から各論を全体的に学び、実務経験のある教員による臨床現場を想定できる応用技術を学ぶ。

2 到達目標

認定実技審査や柔道整復師国家試験の受験に必要な知識・技能を深め、臨床の場での確に施術を実践できるような行動力を身につける。

3 授業の方法

担当教員の実務経験を基に、柔道整復学（理論編・実技編）、包帯固定学などを用いての講義や実践に大切な治療方法などの知識を深め、技能を身につける

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%にて評価する

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って教科書の予習・復習を行うと良い。技術は忘却しないよう、練習を重ねると良い。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編第7版」 南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編第2版」 南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「包帯固定学」 南江堂

8 学生へのメッセージ

脱臼は認定実技試験や国家試験受験及び臨床の場においてとても重要です。より理解を深め、認定実技試験、国家試験、臨床の場に臨んでいただきたい。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 有 ：柔道整復施術所で施術管理者として実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

1 1 科目名 (臨床柔道整復学V)

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	胸鎖関節脱臼
3	肩鎖関節脱臼①
4	肩鎖関節脱臼②
5	肩関節脱臼①
6	肩関節脱臼②
7	肩関節脱臼③
8	肘関節脱臼①
9	肘関節脱臼②
10	肘関節脱臼③
11	肘内障①
12	肘内障②
13	予備・復習
14	予備・復習
15	予備・復習
16	試験解説
17	手関節脱臼①
18	手関節脱臼②
19	CM、MP 関節脱臼
20	PIP,DIP 関節脱臼
21	股関節脱臼①
22	股関節脱臼②
23	膝蓋骨脱臼
24	膝関節脱臼
25	足部脱臼
26	足指の脱臼
27	脱臼総論①
28	脱臼総論②
29	脱臼総論③
30	予備・復習
31	予備・復習
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学VI ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

2年次に学習した各組織損傷の各論を復習する。また、国家試験必修問題対策として柔道、医療倫理、社会保障制度、医療費、関係法規などについて復習する。
実務経験のある教員による実技演習を主体に行う。

2 到達目標

各損傷への理解を深め、施術につながる治療法の理論を習得する。

3 授業の方法

板書を中心とした授業

4 成績評価方法・基準

定期試験 80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度には出欠席状況を加味する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

毎回の授業終了後に復習を行うこと。

7 使用教材、教具

全国柔道整復協会監修「柔道整復学・理論編」（改訂第6版）南江堂

全国柔道整復協会監修「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂

全国柔道整復協会監修「包帯固定学」（改訂第2版）南江堂

8 学生へのメッセージ

解らない内容は放置せずに、質問をして理解力を身に着けるようにしてください。

8 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 有 ： 柔道整復施術にて施術管理者として実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 臨床柔道整復学VI ）

回数	授業内容
1	鎖骨骨折（診察・整復法・固定法）
2	上腕骨外科頸骨折（診察・整復）、上腕骨骨幹部骨折（固定法）
3	コーレス骨折（診察・整復・固定法）
4	中手骨頸部骨折（固定法）、下腿骨骨幹部骨折（固定法）、肋骨骨折（固定法）
5	肩鎖関節情報脱臼（診察・整復法・固定法）
6	肩関節前方脱臼（診察・整復法・固定法）
7	肘関節後方脱臼（診察・整復法・固定法）
8	肘内障（診察・整復法）、示指PIP関節背側脱臼（固定法）
9	腱板損傷（診察・検査法）、上腕二頭筋長頭腱損傷（診察・整復法）
10	大腿部打撲（診察・検査法）、大腿部肉離れ（診察・整復法）
11	膝関節側副靭帯損傷（診察・検査法）、膝関節十字靭帯損傷（診察・検査法）
12	膝関節半月場板損傷（診察・検査法）、膝関節側副靭帯損傷（固定）
13	下腿三頭筋肉離れ（診察・検査法）、アキレス腱断裂（固定法）
14	足関節外側側副靭帯損傷（診察・検査法・固定法）
15	足関節外側側副靭帯損傷（テーピング法）
16	試験解説
17	柔道の理念・礼法・歴史
18	医療倫理・患者の権利
19	リスクマネジメント・医療事故と医療過誤
20	社会保険制度・社会福祉制度
21	医療費・療養費
22	柔道整復師法
23	関係法規
24	包帯法
25	骨折の診察・整復（復習）
26	脱臼の診察・整復（復習）
27	軟部組織損傷の診察・検査（復習）
28	骨折の固定（復習）
29	脱臼の固定（復習）
30	軟部組織損傷の固定（復習）
31	テーピング固定（復習）
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅶ ）

学科名 スポーツ柔整科
学年 3 年

1 授業の内容

担当教員の実務経験を基に、臨床現場においてより素早くより正確に疾患を発見できる能力を身に付けさせ、さらなる知識や技能の習得をはかる。

2 到達目標

人体解剖学に基づく名称や触診部位の説明ができるようになる。また人体構造とその機能に関する知識の習得をはかる。

3 授業の方法

ホワイトボードによる講義を中心とし、分野毎にまとめた小テスト実施等により理解度の確認を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験にて評価を行う。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の復習により長期記憶に置き換わるため教科書を反復学習し、わからない部分を無くしていくことを推奨する。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編」（第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

一度学んでいる分野だとは思いますが、国家試験、また卒後の臨床にも使える為にも、より深い理解が出来るよう取り組んでください。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所において施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅶ ）

回数	授業内容
1	骨折の分類 P23～
2	骨折の症状 P31～
3	骨折の合併症 P34～
4	小児骨折、高齢者 P39～
5	骨折の癒合日数 P42～
6	骨折の治癒経過 P43～
7	骨折の予後 P45
8	骨折の治癒に影響を与える因子 P45～
9	鎖骨骨折 P174～
10	肩甲骨骨折 P179～
11	上腕骨近位部の骨折 P181～
12	上腕骨骨幹部の骨折 P188～
13	上腕骨遠位部の骨折 P193～
14	前腕骨近位部の骨折 P203～
15	前腕骨骨幹部の骨折 P208～
16	試験返却および解説
17	前腕骨遠位端部の骨折 P217～
18	手根骨部の骨折 P224～
19	中手骨部の骨折 P230～
20	指骨の骨折 P237～
21	骨盤骨骨折 P245～
22	大腿骨近位部の骨折 P249～
23	大腿骨骨幹部の骨折 P256～
24	大腿骨遠位端部の骨折 P258～
25	下腿近位端部の骨折 P265～
26	下腿骨幹部の骨折 P271～
27	下腿遠位部の骨折 P278～
28	足根骨の骨折（距骨・踵骨） P283～
29	足根骨の骨折 P288～
30	中足骨の骨折・趾骨の骨折 P290～
31	総復習
32	試験返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅷ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

柔道整復術の適応を様々な角度から診ることで適応疾患と適応外疾患の対応を学ぶ。
また、担当教員の実務経験を基にした外傷の注意点等も含めた授業を行う。

2 到達目標

柔道整復術の適応疾患と適応外疾患を見極めるようになる。また、適応外の対応が出来るようになる。

3 授業の方法

講義形式を中心とする。授業時に配布する資料を参考に使用する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%にて評価を行う。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の復習により長期記憶に置き換わるため教科書を反復学習し、わからない部分を無くしていくことを推奨する。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修「施術の適応と医用画像の理解」南江堂

8 学生へのメッセージ

国家試験のみならず卒業後の臨床に使えるために、より深い理解が出来るよう取り組んでください。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 有 ：柔道整復施術所にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

1 1 科目名 (臨床柔道整復学Ⅷ)

回数	授業内容
1	柔道整復術の適否を考える
2	損傷に類似した症状を示す疾患
3	血流障害を伴う損傷
4	末梢神経損傷を伴う損傷
5	脱臼骨折
6	外出血を伴う損傷 骨折
7	外出血を伴う損傷 脱臼
8	病的骨折および脱臼
9	意識障害を伴う損傷
10	脊髄症状のある損傷呼吸運動障害を伴う損傷
11	内臓損傷の合併が疑われる損傷
12	高エネルギー外傷 骨折
13	高エネルギー外傷 脱臼
14	柔道整復術範囲外の対応
15	授業のまとめと復習
16	試験返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

軟部組織損傷の各論を復習し、実務経験のある教員による授業展開を行い、さらに理解力を深める。

2 到達目標

柔道整復師が臨床で多く接する軟部組織損傷の各損傷を学びなおし、さらに理解できるようにする。

3 授業の方法

板書を中心とした授業を行い、実技を交えてそれらの実際を確認する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度には出欠席状況も加味する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

毎回の授業終了後に必ず復習すること。

7 使用教材、教具

全国柔道整復協会編「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂

全国柔道整復協会編「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

不明な点は取り残さないようにし、質問をして理解をするようにしてください。

8 教員氏名（ 中野 仁 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科）

実務経験の詳細（ 有 ： 柔道整復施術所にて施術管理者として実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 柔道整復実技Ⅲ ）

回数	授業内容
1	上肢の軟部組織損傷：肩関節部の軟部組織損傷（1）
2	肩関節部の軟部組織損傷（2）
3	肩関節部の軟部組織損傷（3）
4	肘関節部の軟部組織損傷（1）
5	肘関節部の軟部組織損傷（2）
6	前腕部の軟部組織損傷（1）
7	前腕部の軟部組織損傷（2）
8	前腕部の軟部組織損傷（3）
9	手関節部の軟部組織損傷（1）
10	手関節部の軟部組織損傷（2）
11	手部、指部の軟部組織損傷（1）
12	手部、指部の軟部組織損傷（2）
13	手部、指部の軟部組織損傷（3）
14	前期のまとめ1
15	前期のまとめ2
16	定期試験解説
17	下肢の軟部組織損傷：股関節の軟部組織損傷（1）
18	股関節の軟部組織損傷（2）
19	大腿部の軟部組織損傷（1）
20	大腿部の軟部組織損傷（2）
21	膝関節の軟部組織損傷（1）
22	膝関節の軟部組織損傷（2）
23	膝関節の軟部組織損傷（3）
24	下腿部の軟部組織損傷（1）
25	下腿部の軟部組織損傷（2）
26	足関節部の軟部組織損傷（1）
27	足関節部の軟部組織損傷（2）
28	足関節部の軟部組織損傷（3）
29	後期のまとめ1
30	後期のまとめ2
31	後期のまとめ3
32	定期試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅳ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1. 授業の内容

臨床現場においてより素早くより正確に疾患を発見できる能力を身に付けるために、担当教員の実務経験を基に様々な症例を比較しながら、人体構造や人体の仕組みについて解剖学や生理学を含めた学習を行う。

2. 到達目標

人体解剖学に基づく名称や触診部位の説明ができるようになる。また人体構造とその機能に関する知識の習得をはかる。

3. 授業の方法

ホワイトボードによる講義を中心とし、分野毎にまとめた小テスト実施等により理解度の確認を行う。

4. 成績評価方法・基準

定期試験にて評価を行う。

5. 評価の際の特記事項

特になし。

6. 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の復習により長期記憶に置き換わるため教科書を反復学習し、わからない部分を無くしていくことを推奨する。

7. 使用教材

全国柔道整復学校協会監修「解剖学」（改訂第2版）
配布プリント

8. 学生へのメッセージ

一度学んでいる分野だとは思いますが、国家試験、また卒後の臨床にも使える為にも、より深い理解が出来るよう取り組んでください。

9. 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所において施術者としての実務経験あり ）

10. 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

1 1 科目名 (柔道整復実技Ⅳ)

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	骨の形態と機能①体幹
3	骨の形態と機能②上肢
4	骨の形態と機能③下肢
5	筋の構造と機能①体幹
6	筋の構造と機能②上肢
7	筋の構造と機能③下肢
8	血管の構造と機能①頭部・体幹
9	血管の構造と機能②上肢
10	血管の構造と機能③下肢
11	神経の構造と機能①頭部・体幹
12	神経の構造と機能②上肢
13	神経の構造と機能③下肢
14	痛みの種類とメカニズム
15	前期まとめ
16	答案返却及びその解説授業
17	上肢骨折での触診部位・神経疾患①肩部～肘部
18	上肢骨折での触診部位・神経疾患②前腕部～指部
19	上肢脱臼での触診部位・神経疾患①肩関節・肘関節
20	上肢脱臼での触診部位・神経疾患②手関節・指関節
21	上肢軟部組織損傷での触診部位・神経疾患①肩部～肘部
22	上肢軟部組織損傷での触診部位・神経疾患②前腕部～指部
23	下肢骨折での触診部位・神経疾患①骨盤部～膝部
24	下肢骨折での触診部位・神経疾患②下腿部～趾部
25	下肢脱臼での触診部位・神経疾患①股関節・膝関節
26	下肢脱臼での触診部位・神経疾患②足関節・趾関節
27	下肢軟部組織損傷での触診部位・神経疾患①骨盤部～膝部
28	下肢軟部組織損傷での触診部位・神経疾患②下腿部～趾部
29	頭部・顔面部損傷での触診部位・神経疾患①第Ⅻ脳神経の機能
30	頭部・顔面部損傷での触診部位・神経疾患②第Ⅻ脳神経の圧痛点
31	後期まとめ
32	答案返却及びその解説授業

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅴ ）

学科名 スポーツ柔整科
学年 3年

- 1 授業の内容
主に認定実技審査内容の診察・整復、固定の内容について理解を深めるため、担当教員の実務経験を基に、実技形式で行う。
- 2 到達目標
主に認定実技審査の内容に対して理解を深め、技能を高め、国家試験合格に必要な知識を得る。
- 3 授業の方法
実技編・理論編の教科書を用いて知識を習得し、担当教員の実務経験を基にした実践において必要な技術の向上を促す。また、模擬的に技能の習得の確認なども行う。
- 4 成績評価方法・基準
定期試験 100%にて評価を行う
- 5 評価の際の特記事項
特になし。
- 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容
予習・復習は非常に大切で、特に技能向上のためには繰り返しの自主的な練習は必要不可欠である。
- 7 使用教材，教具
全国柔道整復協会監修「柔道整復学・理論編」（改訂第6版）南江堂
全国柔道整復協会監修「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂
全国柔道整復協会監修「包帯固定学」（改訂第2版）南江堂
- 8 学生へのメッセージ
認定実技審査への合格、国家試験の合格のためには、多くの知識・技能が必要です。より高い技術力を得られるように修練し、深い知識が得られるように学習しましょう。
- 9 教員氏名（ 久野 貴史 ）
所 属（ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）
実務経験の詳細（ 有 ：柔道整復施術所で施術者として実務経験あり ）
- 10 特記事項
実務経験のある教員による実務的教育の授業

1 1 科目名 (柔道整復実技V)

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	包帯の基礎
3	足関節外側側副靭帯損傷 (副子固定)
4	足関節外側側副靭帯損傷 (副子固定)
5	下腿骨幹部骨折 (副子固定)
6	下腿骨幹部骨折 (副子固定)
7	アキレス腱断裂 (副子固定)
8	アキレス腱断裂 (副子固定)
9	上腕骨骨幹部骨折(三角副子固定)
10	上腕骨骨幹部骨折(三角副子固定)
11	肋骨骨折(副子固定)
12	肋骨骨折(副子固定)
13	第5中手骨頸部骨折 (アルミ固定)
14	第5中手骨頸部骨折 (アルミ固定)
15	第2指 PIP 関節背側脱臼(アルミ固定)
16	第2指 PIP 関節背側脱臼(アルミ固定)
17	足関節外側側副靭帯損傷 (副子固定) 復習
18	足関節外側側副靭帯損傷 (副子固定) 復習
19	下腿骨幹部骨折 (副子固定) 復習
20	下腿骨幹部骨折 (副子固定) 復習
21	アキレス腱断裂 (副子固定) 復習
22	アキレス腱断裂 (副子固定) 復習
23	上腕骨骨幹部骨折(三角副子固定)復習
24	上腕骨骨幹部骨折(三角副子固定)復習
25	肋骨骨折(副子固定)復習
26	肋骨骨折(副子固定)復習
27	第5中手骨頸部骨折 (アルミ固定) 復習
28	第5中手骨頸部骨折 (アルミ固定) 復習
29	第2指 PIP 関節背側脱臼(アルミ固定)復習
30	第2指 PIP 関節背側脱臼(アルミ固定)復習
31	予備・復習
32	予備・復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技VI ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

これまでに習得した柔道整復術の整復、固定を患者と施術者に分かれて実技を繰り返し行う。担当教員の実務経験をもとに、臨床に即した施術法を実践する。

2 到達目標

骨折、脱臼、軟部組織損傷に対する柔道整復術の整復および固定を早く、丁寧に行うことができるようになる。

3 授業の方法

担当教員の実務経験を活かし、現場で必要な固定術の技術習得を促す。

固定材料（軟性、硬性）を用い整復と固定を授業毎にテーマを決めて行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業で配布している資料を基に自主練習の復習を行うこと。実技は簡単に身につくものではないので繰り返し練習し定着させる必要がある。

7 使用教材、教具

全国柔道整復協会編「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂

全国柔道整復協会編「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

実技は繰り返して練習しなければ身に付きません。自主的に練習し、不明な点は必ず質問して、理解するようにしてください。

8 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所において施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

1 1 科目名 (柔道整復実技VI)

回数	授業内容
1	鎖骨骨折の診察、整復
2	上腕骨外科頸骨折の診察、整復
3	コーレス骨折の診察、整復
4	肩鎖関節上方脱臼の診察、整復
5	肩関節前方烏口下脱臼の診察、整復
6	肘関節後方脱臼の診察、整復
7	肘内障の診察、整復
8	肩腱板損傷の診察、検査法
9	上腕二頭筋長頭腱損傷の診察、検査法
10	ハムストリングス損傷、下腿三頭筋損傷の診察、検査法
11	大腿四頭筋打撲の診察、検査法
12	膝関節側副靭帯損傷の診察、検査法
13	膝関節十字靭帯損傷の診察、検査法
14	膝関節半月板損傷の診察、検査法
15	足関節外側靭帯損傷の診察、検査法
16	試験解説
17	骨折の診察、整復全般 1
18	脱臼の整復全般 1
19	軟部組織損傷の診察全般 1
20	骨折の整復全般 2
21	脱臼の整復全般 2
22	軟部組織損傷の診察全般 2
23	実技演習 1
24	実技演習 2
25	実技演習 3
26	実技演習 4
27	実技演習 5
28	実技演習 6
29	実技演習 7
30	実技演習 8
31	実技演習 9
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅶ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

主に全身の脱臼の内容を扱う。認定実技審査や国家試験、資格取得後の施術方法について、担当教員の実務経験を基に、理解を深め、技能を高める。

2 到達目標

脱臼という関節構成組織損傷のおける、診察・施術（整復・固定・後療法）、注意点などについて理解を深め、認定実技審査、国家試験に臨める知識・技能を身につける。

3 授業の方法

脱臼について、患者の来院から診察・徒手検査、整復、固定、後療法などの一連の流れを実技形式で実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験にて評価する。併せて、認定実技審査の合格が必須となる。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

技術を身につけるために授業は実践的に取り組み、練習や自己学習を繰り返して知識を深めることが大切です。

7 使用教材，教具

全国柔道整復協会監修「柔道整復学・理論編」（改訂第6版）南江堂

全国柔道整復協会監修「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂

全国柔道整復協会監修「包帯固定学」（改訂第2版）南江堂

8 学生へのメッセージ

認定実技審査は、柔道整復師を目指す学生にとって重要な実技審査であり、また国家試験対策としても重要です。しっかりと学習に取り組み理解を深めましょう。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所において施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

1 1 科目名 (柔道整復実技Ⅶ)

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	肩鎖関節上方脱臼 (診察)
3	肩鎖関節上方脱臼 (整復)
4	肩鎖関節上方脱臼 (固定)
5	肩関節前方脱臼 (診察)
6	肩関節前方脱臼 (整復)
7	肩関節前方脱臼 (固定)
8	肘関節後方脱臼 (診察)
9	肘関節後方脱臼 (整復)
10	肘関節後方脱臼 (固定)
11	肘内障 (診察)
12	肘内障 (整復)
13	肘内障 (固定)
14	予備・復習
15	予備・復習
16	試験解説
17	PIP 関節背側脱臼
18	第 1MP 関節背側脱臼
19	股関節後方脱臼
20	膝蓋骨側方脱臼
21	足趾の脱臼
22	顎関節脱臼
23	肩鎖関節脱臼復習①
24	肩鎖関節脱臼復習②
25	肩関節脱臼復習①
26	肩関節脱臼復習②
27	肘関節後方脱臼復習①
28	肘関節後方脱臼復習②
29	肘内障復習①
30	肘内障復習②
31	予備・復習
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅷ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

主に認定実技審査内容の診察・整復・固定の内容について、知識や技能を深めるため、担当教員の実務経験を基に実技形式で行う。

2 到達目標

主に認定実技審査の内容に対して知識や技能を深め、国家試験合格に必要な知識を習得する。

3 授業の方法

実技編・理論編の教科書を用い、知識を習得し、実践において技術の向上を図る。模擬的に技能の習得の確認なども行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験にて評価を行う。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

予習・復習は非常に大切で、特に技能向上のためには繰り返しの自主的な練習は必要不可欠である。

7 使用教材、教具

全国柔道整復協会編「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂
全国柔道整復協会編「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

認定実技審査、国家試験の合格に向けて、知識・技能の向上に努めましょう。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所において施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

1 1 科目名 (柔道整復実技Ⅷ)

回数	授業内容
1	鎖骨骨折整復法①
2	鎖骨骨折整復法②
3	コーレス骨折整復法①
4	コーレス骨折整復法②
5	肩腱板損傷診察法①
6	肩腱板損傷診察法②
7	上腕骨外科頸骨折整復法①
8	上腕骨外科頸骨折整復法②
9	上腕二頭筋長頭腱損傷診察法①
10	上腕二頭筋長頭腱損傷診察法②
11	ハムストリングス損傷診察法①
12	ハムストリングス損傷診察法②
13	大腿四頭筋打撲診察診察法①
14	大腿四頭筋打撲診察診察法②
15	総復習
16	試験返却および解説
17	下腿三頭筋損傷診察法①
18	下腿三頭筋損傷診察法②
19	足関節外側靭帯損傷診察法①
20	足関節外側靭帯損傷診察法②
21	足関節外側靭帯損傷固定法① (局所副子固定)
22	足関節外側靭帯損傷固定法② (局所副子固定)
23	本番形式での実技練習 1
24	本番形式での実技練習 2
25	本番形式での実技練習 3
26	本番形式での実技練習 4
27	本番形式での実技練習 5
28	本番形式での実技練習 6
29	本番形式での実技練習 7
30	本番形式での実技練習 8
31	総復習
32	試験返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅸ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1. 授業の内容

柔道整復師として必要な整復固定の知識、技能について学習する。また、担当教員の実務経験を基に外傷の説明や整復固定の注意点等の説明も行う。

2. 到達目標

臨床に必要な知識・技能を身につける。

3. 授業の方法

教科書を中心とした講義や実技。及び各項目終了後に課題を行う。

4. 成績評価方法・基準

定期試験 80%、授業態度 20%

5. 評価の際の特記事項

質問への返答、課題に対する理解度。

6. 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

事前に教科書の予習、直後の復習により知識が定着する。さらに教科書以外の参考書で学習する事によりさらに理解が深まる。

7. 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編」（改定第7版）南江堂

8. 学生へのメッセージ

整復固定は柔道整復師の業務を行うにあたりとても大事な所なので、しっかり勉強して下さい。

9. 教員氏名（ 宮田 哲弘 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 有 ：柔道整復施術所にて施術管理者として実務経験あり ）

10. 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (柔道整復実技IX)

回数	授業内容
1	鎖骨定型的骨折 (触診・鑑別・整復・固定)
2	上腕骨外科頸骨折 (触診・鑑別・整復・固定)
3	コーレス骨折 (触診・鑑別・整復・固定)
4	肩鎖関節上方脱臼 (触診・鑑別・整復・固定)
5	肩関節前方脱臼 (触診・鑑別・整復・固定)
6	肘関節後方脱臼 (触診・鑑別・整復・固定)
7	肘内障 (触診・鑑別・整復・固定)
8	肩腱板損傷 (触診・鑑別・固定)
9	上腕二頭筋長頭腱損傷 (触診・鑑別・固定)
10	ハムストリングス損傷・大腿四頭筋打撲 (触診・鑑別・固定)
11	膝関節側副靭帯損傷 (触診・鑑別・固定)
12	膝関節十字靭帯損傷 (触診・鑑別・固定)
13	膝関節半月板損傷 (触診・鑑別・固定)
14	下腿三頭筋損傷 (触診・鑑別・固定)
15	足関節外側靭帯損傷 (触診・鑑別・固定)
16	後期試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習Ⅳ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

臨床実習施設において、見学実習を主体とした臨床実習を行う。

2 到達目標

- ・臨床現場における適切な行動・態度，そして責任感を修得することを目標とする。
- ・施術および施術所の運営（予約システム，受付，会計，スタッフとのコミュニケーション等）についても見学する。

3 授業の方法

- ・各臨床実習施設の臨床実習指導者の指示のもと，臨床現場に即した行動を実践する。
- ・実際の施術の現場や，関連する仕事の様子を見学する。一連の業務内容を理解して柔道整復師としての基本的姿勢を身に付ける。
- ・臨床実習は異なる施設で実施される。臨床実習施設へは各自が公的交通手段を利用し，決められた開始時間の20分前には施設に到着し，10分前には着替えを終了しなければならない。

4 成績評価方法・基準

出席，実習記録，レポート等の提出物，各指導者による評価を総合して最終評価とする。

5 評価の際の特記事項

毎回のレポート提出は評価の基準となる。

6 授業時間外学習

日々，臨床実習に必要な基礎知識（専門基礎科目，専門科目）を学習する。

7 使用教材，教具

「実習の手引き」

8 学生へのメッセージ

- ・資格取得後，就職先で実務を実践することを念頭に置いて体験，学習しましょう。
- ・時間厳守，コンプライアンスを実践し，自己責任を持って行動してください。
- ・体調不良や交通機関のトラブルなどで欠席，遅刻する場合は，必ず担当教員に連絡をしてください。無断欠席や遅刻は評価に影響します。

9 教員氏名（ 梅崎 航 以下臨床実習指導者 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 有 ：柔道整復施術所の施術者として実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験を有する教員が臨床実習調整者となり，臨床実習指導者が現地で担当。

1 1 授業計画 科目名 (臨床実習Ⅳ)

回数	
	8月中の期間で、5日～7日間(45時間)の臨床実習を行う。